

Hokkaido University News

北大時報

令和8年

8

No. 869 August 2026

中央食堂の愛称が「レバレッジズ中央食堂」にーレバレッジズ株式会社とネーミングライツに関する契約を締結ー
「北海道大学海外留学フェア」を初開催
北海道マラソン連携プロジェクト活動の一環として、総合博物館中庭を一般公開



全学ニュース

- 1 中央食堂の愛称が「レバレージーズ中央食堂」にーレバレージーズ株式会社とネーミングライツに関する契約を締結ー
- 2 令和8年度出入国在留管理制度説明会を実施
- 3 「北海道大学海外留学フェア」を初開催
- 4 「海外で学生を引率する教職員のための安全対策セミナー」FD研修会を開催
- 5 札幌キャンパス内で特定外来生物（オオハングソン等）防除活動
- 6 日英二言語化に関するWeb説明会を開催
- 7 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 9 「月寒あんぱん 北大りんご」が発売開始
- 10 「北海道大学ーNTT技術交流会」を開催
- 11 実践型学習プログラム「HFX Academy」を開催
- 12 SCSK北海道株式会社と共創 AI・プログラミング講座を開催
- 13 株式会社HBAとの産学連携講義で商品開発・マーケティングを実践
- 14 株式会社ディー・エヌ・エー及び特定非営利活動法人北海道エンブリッジと連携したAIプロダクト開発ワークショップを開催
- 15 岩見沢緑陵高等学校でアントレプレナーシップ教育の出張講義を実施
- 16 米国マサチューセッツ大学アマースト校で技術職員研修を開催
- 17 令和8年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催
- 18 北海道のGX推進に向けて三菱UFJ信託銀行株式会社の寄附講義開講をコーディネート
- 19 グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026（GNPS2026）サイドイベント「NATURE TECH!」にブース出展・ステージ登壇
- 20 札幌キャンパス構内にウォータースタンド増設、マイボトル携帯を呼びかけ
- 21 北海道マラソン連携プロジェクト活動の一環として、総合博物館中庭を一般公開
- 22 サイエンスレクチャー2026「『生まれる』ってどういうこと？ 生命誕生のサイエンス」を開催
- 23 2026年度北海道大学採用直結型企業面談会を開催
- 24 学生相談支援センターが「第1回学生相談フォーラム」を開催



北海道マラソン連携プロジェクト活動の一環として、総合博物館中庭を一般公開



「Study+Work in Sweden スウェーデン留学+キャリアフェア in Hokkaido」を開催



「北海道大学海外留学フェア」を初開催



米国マサチューセッツ大学アマースト校で技術職員研修を開催

部局ニュース

- 25 「Study+Work in Sweden スウェーデン留学+キャリアフェア in Hokkaido」を開催
- 26 会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
- 27 会計専門職大学院が特別講演会を開催
- 28 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 29 医学研究院にサイエンスカフェを開設
- 30 保健科学研究院がHealth Sciences Evening Seminar by Visiting Scholars from Indiaを開催
- 31 第46回 あぐり大学「食べ物の味の感じ方」を開催
- 32 「第17回国立大学共同利用・共同研究拠点協議会総会」を開催
- 33 スラブ・ユーラシア研究センター2026年度夏期国際シンポジウム「グローバル・リスクとしてのユーラシア：核、安全保障、国境」を開催
- 34 北海道大学病院で「第67回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催
- 35 「研究者と極秘調査！？カエルとオタマジャクシの謎にせまれ！」を北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林で開催

表敬訪問 36

人事 37

- 38 部局長等（再任）紹介
- 38 新任教授紹介

資料

- 39 令和7年度卒業・修了者の就職等状況一覧



第46回 あぐり大学「食べ物の味の感じ方」を開催



北海道大学病院で「第67回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催

表紙：札幌キャンパス内で特定外来生物（オオハングソン等）防除活動（関連記事5頁に記載）

裏表紙：キャンパス懐古⑦ 新築の環境科学研究科管理棟（1980年8月）

■全学ニュース

中央食堂の愛称が「レバレジーズ中央食堂」に ーレバレジーズ株式会社とネーミングライツに関する契約を締結ー

北海道大学は、レバレジーズ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役：岩槻知秀氏）を中央食堂のネーミングライツ・パートナーとして決定し、同社と大学施設のネーミングライツ（施設命名権）に関する契約を締結しました。命名権付与期間は、令和8年7月1日から令和13年6月30日までの5年間です。これにより、7月1日（水）から同食堂の愛称が「レバレジーズ中央食堂」となりました。

契約開始に先立ち、6月30日（火）に同食堂前にて命名式典を実施し、レ

バレジーズ株式会社の泉澤匡寛執行役員、網塚 浩理事・副学長、坂爪浩史北海道大学生協同組合理事長の3名によるテープカットと関係者による内覧が行われました。

レバレジーズ株式会社は、「関係者全員の幸福の追求」という理念のもと、IT、医療/ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など社会課題の大きい分野を中心に、国内外で60以上の事業を展開している企業です。代表取締役の岩槻氏からは、「今回のネー

ミングライツ契約を通じて学生の皆様が日々の学びや交流を通じて視野を広げ、それぞれの可能性を最大限に発揮しながら、自らの未来を切り拓いていく環境づくりに少しでも貢献できれば幸いです。」とのコメントが寄せられています。

今後は、「レバレジーズ中央食堂」の愛称が多くの学生・教職員に親しまれ定着するよう努めるとともに、食堂の環境改善を図る予定です。

（学務部学生支援課）

ネーミングライツの概要

1. ネーミングライツ・パートナー
法 人 名：レバレジーズ株式会社
本社所在地：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号
代 表 者：岩槻知秀
2. 対象施設 中央食堂
3. 愛 称 名 レバレジーズ中央食堂
4. 契約期間 2026年7月1日～2031年6月30日



テープカットの様子（左から）網塚理事・副学長、泉澤レバレジーズ株式会社執行役員、坂爪北海道大学生協同組合理事長



食堂1階に設置されたウォールクロック前

令和8年度出入国在留管理制度説明会を実施

6月25日（木）、学術交流会館において、出入国在留管理制度説明会を開催しました。

本説明会は、「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、学務部学生支援課が運営を担当し同協議会関係者を対象に、最新の出入国在留管理制度に関する正確な情報を提供し、制度への理解を深めることを目的として法務省札幌出入国在留管理局の協力を得て毎年開催しているものです。

開催にあたり出入国在留管理局等関係省庁から講師を招いて実施しており、今回は道内各地の17団体から計85

名が参加しました。

説明会では、はじめに法務省札幌出入国在留管理局審査第二部門入国審査官の高井 駿氏より「出入国在留管理制度について」と題した講義が行われ、最新情報を含む詳細な説明がありました。続いて、北海道農政部生産振興局畜産振興課主査の榊原伸一氏より「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛防疫の取組について」、さらに農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課長の池田亜季氏より「肉製品の違法持込み防止に向けて」と題した講義が行われました。質疑応答では、事前に

受け付けた質問も含め活発なやりとりが行われ、大変有意義な説明会となりました。

なお、本説明会は、申請等取次者の承認手続において受講が必要とされる「出入国在留管理行政に関する研修会等」に該当しており、受講者には申請等取次申出時に添付資料として利用できる受講証明書を交付しました。

また、次回以降、本説明会の運営担当は国際交流課となります。

（学務部学生支援課）



札幌出入国在留管理局 高井氏による説明

「北海道大学海外留学フェア」を初開催

7月15日（水）、オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」にて、本学では初めてとなる「北海道大学海外留学フェア」を開催しました。

本フェアは、国際交流科目「Experiencing International Collaboration」履修の学生と学務部国際交流課が主体となり、「パスポートを手に、留学への旅に出よう」をテーマに、留学生と日本人学生が交流する機会を創出するとともに、実際の留学体験談や留学に関する具体的な情報を発信することで、より多くの北大生に留学を身近に感じてもらうことを目指して開催され、約150名の学生が来場しました。

当日は、留学生と一緒にゲームやク

イズで遊びながら留学のリアルを疑似体験するアクティビティブース、現地の学習と生活のリアルを楽しく知る地域別ブース、北大の留学制度を詳しく紹介する国際交流課ブース（新渡戸カレッジ含む）、及び外部機関ブース*の四つのエリアを設け、来場者は興味に応じて自由に見学・交流しました。

来場者からは、「色々知れて面白かった」「話しやすい雰囲気で、色々な展示やアクティビティを留学生の方と話しながらできて充実した時間を過ごせた」という声が寄せられました。

今回のフェアは、留学生、日本人学生、教職員及び海外留学支援機関等が一堂に会し、留学や海外で働くことへ

の関心を高めるとともに、新たな交流のきっかけを生み出す機会となりました。今後も、本学では学生が世界へ挑戦する第一歩を後押しする取組を継続していきます。

本フェアについては履修学生が運営するInstagram (@hu_studyabroadfair) でも紹介しています。

*外部機関ブースの参加機関：外務省国際機関人事センター、SAFスタディ・アブロード・ファウンデーション、北海道創生・海外留学支援協議会、北海道大学生生活協同組合

（学務部国際交流課）



受付の様子



アクティビティブースの様子



外部機関ブースの様子



来場者でにぎわう会場の様子

「海外で学生を引率する教職員のための安全対策セミナー」 FD研修会を開催

教育イノベーション機構国際教育センターでは、7月3日（金）、学生海外派遣における危機管理に関するFD研修会を開催しました。今回は、池田敦子総長補佐を講師として、「海外で学生を引率する教職員のための安全対策セミナー」と題して、オンラインで実施しました。

令和6年度に採択された文部科学省補助金事業「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」は、学生の海外派遣を主軸としています。学生を伴う海外教育プログラムにおいて、引率教員には教育活動の遂行だけ

でなく、参加学生の安全確保や危機発生時の適切な対応が求められます。そのため本研修会では、海外渡航時に想定される様々なリスクについて理解を深めるとともに、引率教員として必要な危機管理意識と対応能力の向上を図ることを目的として開催されました。

本研修では、新たに作成した「引率教職員向け海外安全対策マニュアル」をもとに、海外引率における安全管理の基本的な考え方や、渡航前の準備・情報収集、学生への事前指導、危機発生時の報告体制及び初動対応について解説がありました。また、引率教職員

に求められる安全配慮義務についても説明があり、海外教育プログラムを安全に実施するための理解を深めました。

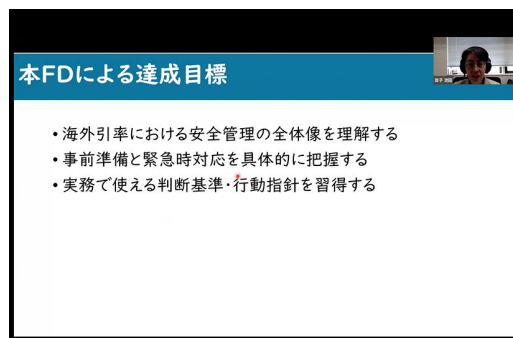
本研修会には教職員42名が参加し、学生の海外派遣における安全対策や危機管理に対する教員の関心の高さがうかがえました。

今後も学生が安心して海外で学ぶことのできる環境づくりに向けて、教職員を対象とした研修や情報共有を継続して実施していく予定です。

（学務部国際交流課）



海外で学生を引率する教職員のための安全対策セミナー資料



オンライン研修会の様子

札幌キャンパス内で特定外来生物（オオハンゴンソウ等）防除活動

7月17日（金）に、札幌キャンパス遺跡庭園内において特定外来生物の防除活動を実施しました。

この活動は、「北海道大学キャンパスマスタープラン2018」に掲げる自然・生態環境の維持・管理・保全の取組の一環として、侵略的外来植物の防除を推進するものです。

本年は、生態環境マネジメントワー

キング構成員である愛甲哲也教授並びに首藤光太郎助教をはじめとする先生方のご指導・ご協力のもと実施しました。

当日は湿度・気温ともに高い環境下での活動となりましたが、学生、札幌市職員並びに教職員の計34名が参加し、熱心に作業に取り組みました。約1時間にわたり防除活動を行った結果、

特定外来生物（植物）であるオオハンゴンソウを計12.66㎡（一般的な家庭用浴槽〔200L〕約63杯分相当）防除することができました。これらの防除結果については、年末に環境省へ報告する予定です。

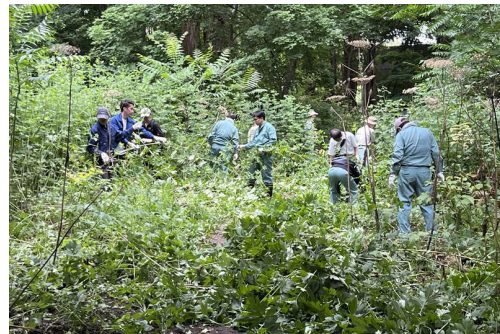
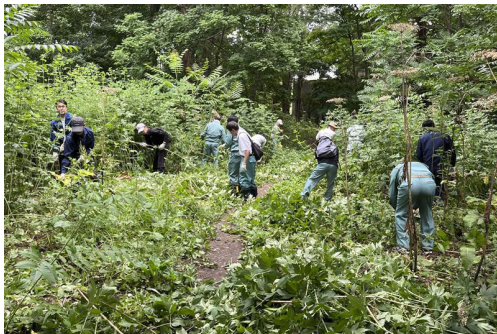
（施設部環境配慮促進課）



首藤助教による説明の様子

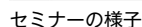


防除活動参加者の集合写真



防除活動の様子

(国際部国際企画課)



説明会ポスター

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130周年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(6月30日現在)／61,584件	11,538,851,701円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(6月30日現在)／24,536件	5,374,083,144円

<ご寄附状況>

6月は518件45,834,928円のご寄附を賜りました。そのご厚志に対しまして、心より感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アーニストホーム、エーワイハッピー株式会社、一般財団法人協済会、サイエンス・テクノロジー・システムズ株式会社、札幌住販株式会社、昭和木材株式会社卒業生一同、ジョレンジャパン高嶋屋有限会社、医療法人スワンアイクリニック、SOU理美容所、株式会社ニココー、パーバリースターファインド、HAIR MAKE Sugar Wave、北海道STS株式会社、一般社団法人北海道健康医療フロンティア、幌北連合町内会、株式会社宮香アロマテック、有限会社ノア

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青山 佳仁	安居院高志	朝井 克司	浅沼 佳南	安彦 和之
阿部 雅史	安藤 伸	池谷 栄樹	石井 哲夫	石川 恵子	石野 悟司	石山 喬	磯野 伸也
板倉 智敏	井溪可奈子	伊藤 雄三	井上 将希	井原 博	今井 四郎	今井 晋	入江 和彦
入澤 秀次	宇野 泰広	梅本 由佳	縁記 和也	猿渡 晴久	遠藤 公憲	大久保 剛	大隈 昭二
大島 亘	大谷 信広	大原 正範	岡田 英子	沖崎 遼	長田 義仁	小田原一史	小原 大和
片山 奨	金川 聖也	金川 眞行	上谷 誠司	烏野 慶一	川崎 茂毅	河本 充司	北本 耕次
衣川 暢子	久々湊 聖	楠田 雅章	栗橋 秀幸	栗原 誠治	上月 浩	小住 英之	小関 成樹
小丹枝利昭	小林 賢人	小林 隆徳	小林 琢爾	近藤 信彦	齊藤 晋	齋藤 久	坂 和久
阪井 紀乃	坂井やす子	坂本 大介	崎元 大志	佐々木一夫	佐々木貴信	佐藤 公一	佐藤 耕太
佐藤壮一郎	佐藤 聡真	沢畑 雅彦	三升畑元基	志済 聡子	柴崎 元	柴田 好	島崎 道子
新保 雄司	須貝 壮	菅原 隆夫	菅原 新也	杉江 利彦	鈴木 貴之	須田 力	銭谷 竜一
曾村 尚明	高瀬登志彦	田栗 和奈	竹下 忠彦	田中 晴生	棚川 敦司	田原口智士	玉置 亮
對馬 新	都野建二郎	徳永 和彦	豊嶋 晋	豊田 威信	中川 和果	中嶋あゆみ	長瀬 博
長沼 昭夫	永野 昌志	中村 秀治	中村 楯夫	中村 紀典	西浦 まい	西條 正明	西田 和代
根本 叔治	野川 聡	野澤 聡志	A・E・バックハウス	花田 秀一	林邊 瑠梨	原 啓介	原田 祐司
半崎 貴敏	廣重 勝彦	福田 聡史	福永 悟郎	藤井 治也	藤澤 裕子	藤田 芳康	別所 智博
寶金 聖子	本間 利久	本間 充	本美 美奈	前田 和宏	真木 浩之	松井 耕二	松原 謙一
真屋 幹雄	三木 證永	三國 誠	水野 達哉	宮田 信幸	村上 広輝	村瀬徳啓充	村山 悟
森本 久雄	安國 庫生	矢田 明	山田 哲	余湖 兼右	横山 考	吉田 香織	吉田 宏朔
吉田 広志	吉田 幸弘	吉成 久和	渡辺 健	渡辺 直樹			

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

<感謝状の贈呈>



一般財団法人砂防・地すべり技術センター様
（令和8年6月18日）



阿部 弘様（令和8年6月25日）



喜田 宏様（令和8年6月30日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

「月寒あんぱん 北大りんご」が発売開始

6月上旬、北大ブランド認定商品「月寒あんぱん 北大りんご」を発売しました。

本商品は、北方生物圏フィールド科学センター余市果樹園で生産されたりんごを使用し、株式会社ほんまが製造したものです。北海道を代表する銘菓「月寒あんぱん」に、北海道大学産りんごの風味を生かした新たな味わいとして商品化されました。学内では北海

道大学生協店舗で取り扱っています。

本商品は、株式会社ナシオのグループ会社である株式会社ノースカラーズが企画した、「つながる北海道」プロジェクトの第一弾です。「つながる北海道」は、北海道大学の研究成果や素材を活用し、北海道の老舗メーカーが商品を開発し、ナシオグループが流通・販売を担うことで、北海道の企業や産業の活性化を目指す取組みです。

本商品は、北海道大学と地域企業との連携により実現した、商品開発事例の一つであり、今後も北大ブランドを通じた産学連携の推進及び、新たな商品開発や地域との連携拡大につなげてまいります。

(産学・地域協働推進機構)



月寒あんぱん 北大りんご

「北海道大学－NTT技術交流会」を開催

産学・地域協働推進機構は、6月11日（木）にホテルモントレエーデルホフ札幌にてNTT株式会社（以下「NTT」という。）と「北海道大学－NTT技術交流会」を開催しました。

本交流会は、NTTグループの研究者・技術者と北海道大学教員が相互理解を深め、研究開発に主眼を置いた技術的な議論を通じて、一層の連携強化につなげることを目的として開催したものです。令和6年度に開催した前回技術交流会に引き続き、GXをテーマとし、GX先導研究センターを中心とした教員及び関係者、NTTグループの関連研究所・研究センターの研究者等、総勢約60名が参加しました。

開会に当たり、星野理彰NTT代表取締役副社長及び瀬戸口剛理事・副学長から挨拶があり、GX分野における

双方の知見や研究フィールドを生かした連携への期待が述べられました。その後、幅崎浩樹GX先導研究センター長から、同センターの取組及び参加教員の研究内容について紹介があり、続いて、NTTグループの研究者から、宇宙環境エネルギー、先端集積デバイス、物性科学基礎研究等に関する研究紹介が行われました。

研究紹介後の歓談では、CO₂の吸収・利用、水素エネルギー、蓄電池、パワーデバイス、再生可能エネルギー利用、環境・水産分野におけるシミュレーション技術等、多岐にわたるテーマについて意見交換が行われました。立食形式の和やかな雰囲気の中で、参加者は互いの研究内容や技術課題について語り合い、今後の共同研究や技術連携につながるきっかけづくりの場と

なりました。

閉会に当たり、小栗克弥NTT物性科学基礎研究所長及び寶金清博総長から挨拶があり、社会課題の解決に向けた連携への期待が述べられました。また、本交流会にあわせて、NTT関係者による水産学部及び北海道ワイン教育研究センターへの訪問も行われ、教育研究の取組紹介、意見交換、施設見学等を通じて、北海道の地域資源を生かした実践的な教育研究活動について理解を深めていただく機会となりました。

今後も、研究成果の社会実装に向けた産学協働を推進すべく、このような取組を継続的に実施してまいります。

（産学・地域協働推進機構）



開会挨拶をするNTT星野副社長



閉会挨拶をする寶金総長

実践型学習プログラム「HFX Academy」を開催

7月11日（土）に、フード&メディカルイノベーション国際拠点において、産学・地域協働推進機構、スクラムベンチャーズ（Scrum Ventures LLC）及びスクラムスタジオ株式会社は、実践型学習プログラム「HFX Academy」を開催しました。

本プログラムは、北海道や北海道ボールパークFビレッジでの事業展開を目指す国内外のスタートアップを支援するアクセラレーションプログラム「Hokkaido F Village X（HFX）」の一環として実施したもので、本学が主幹機関を務める北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）の参画教育機関等から23名

の学生が参加しました。学生がスタートアップ支援の実践を通じて、事業創出や社会課題解決に必要な思考力・行動力を養うことを目的としたアントレプレナーシップ学習プログラムです。

当日は、スクラムベンチャーズの講師が、世界のスタートアップやテクノロジー分野における最新動向、スタートアップと企業・地域との連携事例などについて講演しました。

続いて、学生はチームに分かれ、スタートアップ企業を想定した事業開発シミュレーションに取り組みました。各チームは担当するスタートアップ企業を選び、行政機関、金融機関、大企業などの関係者役との対話を通じて

PoC（Proof of Concept：概念実証）の獲得を目指しました。事業の実現可能性を高めるために必要な協力体制やパートナーシップの構築について、実践的に学ぶ機会となりました。

本プログラムは、8月に実施予定の「HFX Buddy」へと続きます。「HFX Buddy」では、学生が国内外のスタートアップの北海道での事業展開を支援する活動を通じて、グローバルな視点や実践的な課題解決力を身に付けることを目指します。

（産学・地域協働推進機構）



事業計画を検討する学生たち



事業提案を発表する学生チーム



優勝した学生チームと産学・地域協働推進機構
スタートアップ創出本部椎名希美特任准教授（左）

SCSK北海道株式会社と共創 AI・プログラミング講座を開催

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、SCSK北海道株式会社と連携し、デジタル技術を活用した課題解決力や価値創造力を育むとともに、新たな価値創造に挑戦する姿勢を養うことを目的として、AI・プログラミング講座「プログラミング構築手法を学び、論理的思考を習得しよう」を開催しました。本講義は、6月9日（火）～7月7日（火）の全8回にわたり実施し、50人を超える高校生・大学生が参加しました。SCSK北海道株式会社の吉田 学氏、濱田百花氏、藤原久貴氏を講師に迎え、同社の社員による学習支援を受けながら、プログラミングの基礎から生成AIの活用までを実践的に学びました。

講義前半では、プログラミング言語の基本的な仕組みや考え方を学ぶとともに、プログラムを組み立てるための

論理的思考や問題解決の手法について理解を深めました。後半では、開発を支援するツールとしての生成AIの可能性や留意点について学び、社員やTAから助言を受けながら、自ら考えたアイデアをプログラミング作品として具体化し、試作と改善を重ねながら価値を形にするプロセスを体験しました。

そして最終回では、参加者が制作した作品の発表会を実施しました。楽しさを重視した作品や化学・生物学を題材とした作品など、それぞれの関心や発想を生かした成果を披露しました。発表後には、TA及び参加者による相互評価を実施し、作品の発想や完成度、技術的な工夫について活発な意見交換が行われました。

本講座ではSCSK北海道株式会社との連携により、プログラミングや生成AIに関する知識を得るだけでなく、実

務経験を持つ社員との対話や作品制作を通じて、課題を発見し、アイデアを形にしながら価値を創造するプロセスを実践的に学びました。また、自ら考えたアイデアを試行錯誤しながら具体化し、成果を発表して他者からフィードバックを受ける一連の経験は、挑戦と改善を繰り返しながら新たな価値を生み出すアントレプレナーシップを養う貴重な機会となりました。

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部では、今後も企業等と連携してこうした実践的なアントレプレナーシップ教育を推進し、課題解決や新たな価値創造に挑戦する人材の育成に取り組んでまいります。

（産学・地域協働推進機構）



グループワークの様子



講義の様子



最終発表の様子



講師のSCSK北海道株式会社 藤原氏（左上）、濱田氏（右上）、吉田氏（下）

株式会社HBAとの産学連携講義で商品開発・マーケティングを実践

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、株式会社HBA（以下「HBA」という。）と連携した実践型講義「オリジナルノベルティ制作の実践で学ぶ商品開発とマーケティング」を開講しました。本講義では、企業が実際に抱える広報・ブランディングの課題を題材に、学生が商品企画からマーケティング、プレゼンテーションまでを実践的に学びました。4月から約3か月間にわたり全6回の講義を実施し、本学をはじめとする様々な大学・高等学校から71名の学生が参加しました。

講義では、HBAが掲げる「ブランド認知度の向上」「見込み客の獲得」「企業ブランディング」という目的に沿って、学生が、実際に配布することを想定したオリジナルノベルティを企画・提案しました。広告・コピーライティング、ブランディング、プロダクトデザインなど各分野の専門家を講師

に迎え、ターゲット分析やペルソナ設計、コンセプト立案、試作品制作まで、商品開発のプロセスを段階的に学びながら企画をブラッシュアップしました。

7月2日（木）にHBA本社で開催された最終発表会では、14チームがプレゼンテーションを行いました。審査は、コンセプトの明確さ、ターゲットへの訴求力、独創性、ブランドとの親和性、実現可能性、プレゼンテーション力の6項目で行われ、学生たちは試作品やデモンストレーションを交えながら、それぞれの企画の価値を提案しました。審査の結果、絆創膏を活用したノベルティ企画、メッセージ入り菓子の企画、ふりかけを活用した企画の3作品が最優秀賞を受賞しました。今後HBAと共同で実現化を進め、同社が主催・協賛するイベントで配布される予定です。

本講義では、学生が企業担当者やクリエイターとの対話を重ねながら、企業理念を踏まえた価値提案を考え、アイデアを形にするプロセスを経験しました。異なる大学・学部・学年の学生がチームを組み、多様な視点を持ち寄って課題解決に取り組むことで、商品開発やマーケティングの知識だけでなく、協働力やコミュニケーション力といったアントレプレナーシップを養う機会となりました。

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部では、今後も企業や地域との連携を通じて、学生が社会のリアルな課題に挑戦する実践的な教育プログラムを展開し、アントレプレナーシップ教育のさらなる充実を図ってまいります。

（産学・地域協働推進機構）



集合写真



入賞者発表の様子

株式会社ディー・エヌ・エー及び特定非営利活動法人北海道エンブリッジと連携したAIプロダクト開発ワークショップを開催

6月21日（日）、産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、株式会社ディー・エヌ・エー（以下「ディー・エヌ・エー」という。）、学生創業支援プログラム「mocteco」を運営する特定非営利活動法人北海道エンブリッジと連携し、「君の『面白がり』をAIで爆発させる1dayワークショップ Delight Hack Day」を開催しました。

本ワークショップには、学部1年生から博士後期課程までの学生10名が参加し、生成AIを活用したプロダクト開発に挑戦しました。

当日は、ディー・エヌ・エー社員によるレクチャーを通して、同社の企業ミッションである「一人ひとりに 想像を超えるDelightを」の考え方や、ユーザー視点で価値を生み出すプロダクト

開発のプロセスについて学びました。その後、生成AIを活用しながら、身近な課題や興味・関心をテーマにサービスを企画・試作し、社員や参加者との対話を重ねながらアイデアをブラッシュアップしました。

参加者からは、「ディー・エヌ・エー社員との対話により自分では気づけないところまでアイデアを深掘りすることができ面白かった」「AIを使うことで、自分のアイデアをすぐに形にできることを実感した」「ターゲットを絞ることやコアバリューを決めることの重要性を学んだ」といった声が寄せられました。また、「開発を続けて実際に誰かに使ってもらいたい」「まず100円稼げるところまで挑戦したい」「今回出会った参加者と一緒にプロ

ジェクトを進めたい」など、イベント後の具体的なアクションにつながる意欲的なコメントも多く見られ、課題の発見から価値の創造、プロダクトの試作までを実践する中で、アントレプレナーシップを養い、プロダクト開発や生成AI活用への理解を深める機会となりました。

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部では、今後も企業との連携を通じて、学生が実社会の課題に向き合いながら、アントレプレナーシップや先進的なビジネスを学ぶ機会を提供してまいります。

（産学・地域協働推進機構）



株式会社ディー・エヌ・エー社員によるレクチャー



特定非営利活動法人北海道エンブリッジの職員によるレクチャー



ワークショップの様子



株式会社ディー・エヌ・エー社員のサポートを受ける様子

岩見沢緑陵高等学校でアントレプレナーシップ教育の出張講義を実施

産学・地域協働推進機構は、北海道教育大学岩見沢校等との共同事業である「岩見沢ビジネスチャレンジプロジェクト（イワBIZ）」として、出張講義を行いました。本学の椎名希美特任准教授が、5月26日（火）には2年生（151名）、6月23日（火）には1年生（157名）を対象に、デザインシンキングを用いて身近な課題を解決するアイデアを考えるワークショップを実施しました。「イワBIZ」は「事業を自ら起こすこと」の魅力や意義を伝え、若者に創業も将来の選択肢の一つとして考えるきっかけを提供することを目的としたプロジェクトです。今年度も、岩見沢緑陵高等学校の「総合的な

探究の時間」と連携し、協同学習を通じて現代における諸課題解決までの道筋を学ぶとともに、将来、岩見沢市内で創業に挑戦する人材の育成を目指して開催されました。また、北海道教育大学岩見沢校の学生8名がファシリテーターとして参加し、高校生のディスカッションをサポートしました。

2年生を対象とした回では「岩見沢市の課題解決」を、1年生を対象とした回では「レジャー施設の課題を解決するアイデア」をテーマに、それぞれデザインシンキングのフレームワークを通じて課題を見つけること、課題の原因を考えチームで解決アイデアを考えることを実践的に学びました。

参加した高校生からは「（ワークショップを通して）岩見沢には様々な魅力があることがわかった」「岩見沢で何か課題を解決してみたい」といった声がありました。大学生ファシリテーターが高校生の緊張をほぐしながら丁寧にグループワークをサポートし、チーム内での自発的な発言や議論の活発化につながりました。

産学・地域協働推進機構は、今後も若い世代が実社会の課題に向き合いながら、アントレプレナーシップや先進的なビジネスを学ぶ機会を提供してまいります。

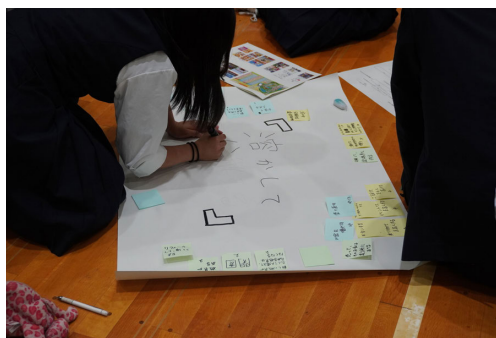
（産学・地域協働推進機構）



グループで取り組む課題を選ぶ様子



課題解決アイデアを創出する様子



課題解決アイデアを具体化する様子

米国マサチューセッツ大学アマースト校で技術職員研修を開催

6月8日（月）～13日（土）に、本学の戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst、以下「UMA」という。）で、技術職員研修を開催しました。本事業は、昨年10月に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の予算支弁の下、UMAの技術職員3名を招へいして開催した研修の対となるものです。昨年の研修時にUMA技術職員の受入を主導した、遺伝子病制御研究所の石垣聡子技術専門職員、工学研究院の鈴木啓太技術専門職員、北方生物圏フィールド科学センターの増茂弘規技術専門職員、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職員がUMAキャンパスを訪問しました。

札幌農学校の初代教頭でありマサチューセッツ農科大学の第3代学長を務めたウィリアム・S・クラーク博士の墓参後、一行は、UMAのマイク・マーロン研究・外部連携担当上席理

事、ピーター・レインハート応用生命科学研究所長、マイケル・フォックス自然科学研究院長の他、昨年10月に来札した技術職員らに迎えられました。UMAのコアファシリティは応用生命科学研究所に集中しているものの全てを集約できるわけではないこと、部局管理機器の更新時、特に材料分析機器の共同開発を行ってきた仏CAMECA社と共同で米国科学財団に資金申請していること、専門職員の技術継承はどの部署でも課題であること、UMA構成員がものづくりに利用できるメイカースペースの機器整備状況と人材確保等、情報交換は多岐にわたりました。また、一行は、ストックブリッジ農学校関連の農業学習センター、果樹園、芝研究センター、作物・動物研究教育農場を訪問し、工学部の学生サークルとも交流しました。理工系、ライフサイエンス、フィールドを問わず、UMAの研究教育施設では長期休暇中

に学部学生インターンを雇用しており、各学生に一定の責任を持たせています。失敗から学ぶことも含めての施設管理であり、それが長期休暇中の施設における人材不足の解消、将来的な研究・研究支援人材の育成にもなっていることがうかがえました。

この2年間の双方向技術職員研修では、初めての試みながら、ラボ業務の効率化や検体・利用者研修システムの改善、研究実験設備の更新判断や資本計画、一般公開の合同ウェビナーや外部連携での協働、ユニット間連携や持続可能な両校連携体制の検討といった共通関心を洗い出すことができました。今年10月には、豪州メルボルン大学の技術職員を、北大キャンパスに迎える予定です。

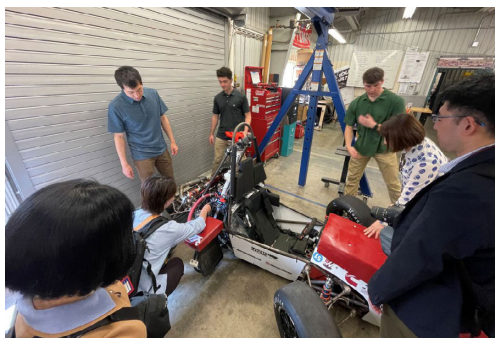
（国際連携推進本部、技術連携統括本部、研究推進部研究支援課）



フォックス自然科学研究院長（左から3人目）と
レインハート所長（4人目）



ジョン・ウッドラフ教授からの周辺地形説明



フォーミュラSAE北海道チーム

令和8年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催

7月9日（木）、サステナビリティ推進機構は令和8年度第1回サステナビリティ推進員会議（以下「推進員会議」という。）をオンラインで開催しました。各部署等のサステナビリティ推進員及び同補佐のほか施設部職員等、約100名が出席しました。

冒頭、サステナビリティ推進機構長である石塚真由美理事・副学長が同機構の体制及び推進員会議の役割を説明し、サステナビリティの推進には各部署等との連携が不可欠であると強調し、今年度から新たに実施予定のFD・SD研修への協力や本会議内容の部局内共有を呼び掛けました。

本会議では、環境保全からキャンパス計画まで多岐にわたる協力要請がなされました。まず、建物への悪影響も懸念される外来植物ニセアカシア、ニワウルシの早期駆除及び札幌キャンパスにおけるエキノコックス対策として手洗いの徹底など、身近な環境・安全

対策への協力が求められました。続いて、今年度から2年間かけて策定される新たなキャンパスマスタープラン改訂に向け、今年度下半期から始まる全学ヒアリング等への協力要請がありました。また、学内外への積極的な情報発信のため、ウェブサイト「北海道大学×SDGs」へのセミナーや連携事業等の情報提供、及び夏季の省エネルギー対策への一層の協力が呼び掛けられました。

続く報告では、令和12年度までに温室効果ガス排出量を平成25年度比で51%削減する「北海道大学Climate Action Plan」の目標などが共有されました。さらに、本学が「THEサステナビリティインパクトレーティング2026」において世界第7位、7年連続国内第1位を獲得したことが報告されました。このほか、対象施設を全建物に拡大し建物の目標耐用年数を90年と定めた「インフラ長寿命化計画」の改定や、

浄水型ウォータースタンドの増設、「札幌キャンパス生き物ガイド」英語版の発行など、多方面にわたり進捗が報告されました。最後に施設部からサステナビリティ推進機構の取組に関するアンケート結果が公表され、会議は終了しました。

サステナビリティ推進機構では、今後も部局等と連携を図りながらサステナビリティ推進に関する活動を実施してまいります。これらの活動はキャンパスの維持・管理や財政等に密接に関わる課題でもあり、本学として持続可能な社会の実現及び未来づくりに貢献していくためにも、全学で一丸となって進めていきたいと考えます。皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

（サステナビリティ推進機構）

議題

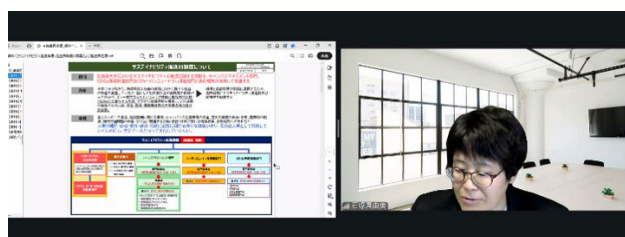
1. サステナビリティ推進員制度について

協力要請

- ニセアカシア、ニワウルシの駆除について
- 令和7年度札幌キャンパスにおけるエキノコックス調査報告と予防について
- キャンパスマスタープラン改訂について
- 「北海道大学×SDGs」への情報提供のお願い
- 令和8年度夏季の省エネルギー対策への一層の取組について

報告

- 北海道大学Climate Action Planについて
- THEサステナビリティインパクトレーティング2026に関する本学の結果について
- 北海道大学インフラ長寿命化計画の改定について
- ウォータースタンド追加設置の件について
- 「北海道大学札幌キャンパス生き物ガイド」英語版の発行について



石塚機構長による体制についての説明の様子

北海道大学インフラ長寿命化計画の改定について

主な見直し内容

- 対象施設の見直し（拡大）
主要団地施設→全団地の全施設に拡大
計画対象面積 621千㎡ → 905千㎡（146%）
- 建物の目標耐用年数90年間に必要な施設整備方法の見直し（ライフサイクルの見直し）
現計画
・ 2回の大規模改修※1
・ 2回の性能維持改修※2
改定
・ 1回の大規模改修※1
・ 2回の性能維持改修※2
文科省提示LCに準拠
R2.3計画 面積当り年平均対策額 9,821円/年・㎡
R8.3計画 面積当り年平均対策額 8,309円/年・㎡（85%）
※1 大規模改修：建物機能の向上または維持させることを目的とした建物全体の改修
※2 性能維持改修：建物機能の回復を目的とした外部及び設備等の改修
- 近年の建設費高騰を踏まえた施設整備費用の見直し（中長期的コストの見直し）
コスト算出単価の上昇
（例：理工系新営単価） 328.2千円/㎡ → 593.0千円/㎡（181%）
- 「行動計画」は令和5年に改定したところではあるが、「個別施設計画」の改定に伴い、「行動計画」において一部修正する必要があるため、上記内容にて改定

※本文は施設部HPの「学内向け」を参照願います。

行動計画：<https://www.facility.hokudai.ac.jp/学内向け/インフラ長寿命化計画（行動計画）>
個別施設計画：<https://www.facility.hokudai.ac.jp/学内向け/individual-plan>

北海道大学インフラ長寿命化計画の改定について

インフラ長寿命化計画の改定について

北海道のGX推進に向けて三菱UFJ信託銀行株式会社の寄附講義開講をコーディネート

サステナビリティ推進機構は、経済学部及び三菱UFJ信託銀行株式会社（以下「三菱UFJ信託銀行」という。）と連携し、3～4年生を対象とした寄附講義「経済学特殊講義Ⅱ（持続可能な未来の実現に向けたサステナブル投資の概要と役割）」を開講しました。

本学では、サステナビリティ推進機構が中心となり、北海道におけるGX（グリーントランスフォーメーション）推進に向けてGX・金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」と連携し、様々な教育活動を行っています。本寄附講義はその一環として開講したもので、各講義は三菱UFJ信託銀行のほか、Team Sapporo-Hokkaidoの協力を得て、行政当局やGX金融・資産運用特区である札幌市や北海道での取組従事者を講師として招へいしています。また、加藤 悟サステナビリティ推

進機構教授も講師陣の一員として名を連ねています。

4月7日（火）の第1回目は、三菱UFJ信託銀行の岡本卓万氏が初回ガイダンス及び「長期投資とインベストメントチェーン」をテーマとした講義を行いました。本講義が、経済・社会・環境という三つの観点から、将来世代の利益を損なうことなく現在の利益を追求するという考え方に基づく「サステナブル投資」について、幅広く理解を深めることを目的としていることを説明しました。

6月30日（火）には、札幌市経済環境局の西山香織GX推進担当局長が「GXと金融で変わる札幌市・北海道」と題して講義を行いました。西山局長は、北海道が日本随一の再生可能エネルギーのポテンシャルと多様な実証フィールドを有しており、都市と自然が調和

した札幌の魅力を生かし、GX政策と一体的にAI政策に取り組み、GX及びAIに関する資金・人材・情報が集積する、アジア・世界の金融センターの実現を目指していることを紹介しました。

7月21日（火）まで全15回にわたりに行われた各講義を通じて、学生はサステナブル投資の手法にとどまらず、サステナブル投資の歴史、投資を通じた持続可能性向上の仕組みともいえるインベストメントチェーンの機能、サステナブル投資を促進する政策など、投資を通じたサステナビリティの実現についても理解を深めました。

今後も、サステナビリティ推進機構は、Team Sapporo-Hokkaidoの活動を通じて、北海道のGXの推進に貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）



講義の様子



講義を行う西山局長

グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026 (GNPS2026) サイドイベント「NATURE TECH!」にブース出展・ステージ登壇

7月14日（火）・15日（水）、サステイナビリティ推進機構は、熊本城ホールで開催されたグローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026（以下「GNPS2026」という。）のサイドイベント「NATURE TECH!」において、ブース出展及びステージ登壇を行いました。

GNPS2026は、Nature Positive Initiative (NPI) 及び国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J) が主催する、自然の損失を食い止め、その回復に向けた行動を加速するため、企業、金融機関、自治体、研究者及び市民社会のリーダーが一堂に会する国際会議です。本サミットは、2030年までに自然の損失を止め、回復へと転じることを目標として、2022年に196か国が合意した昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）の実施を加速することに焦点を当てています。先進的・革新的な取組を紹介し、ビジネス、金融、ガバナンスの各分野におけるネイチャーポジティブ^{*1}の実現に向けた国際的な

取組の加速を目的として開催され、27の国と地域から3,000人以上が参加しました。

本サミットのサイドイベント「NATURE TECH!」は、産官学民の実践者が集い、「自然の損失を止め、再生へ向かうための技術活用とレジリエンス」をテーマに、最新事例の共有と協業の創出を図る場として開催され、50を超える産官学民の団体がブース出展しており、サステイナビリティ推進機構は、本イベントにおいてステージ登壇及びブース出展を行いました。

ステージでは、「30by30（サーティ・バイ・サーティ）^{*2}に向けた保護地域の拡張と北海道大学の挑戦」と題し、愛甲哲也総長補佐・農学研究院教授が講演を行いました。2030年までに陸域と海域の30%以上を保全しようとする国際目標への貢献に向け、本学で進められている生物多様性に関する様々な研究や、キャンパス資産を活用した取組について紹介するとともに、今後の展望について語りました。ブースでは、

本学が広大なキャンパスと研究林を有しており、こうしたフィールド資産や北海道内外の地で、多様な研究教育活動を行っていることを説明しました。また、来場者に自然への関心を高めてもらうため、苫小牧研究林で製作された多様な木材を使用したジェンガや、北海道固有の動物の毛皮を展示しました。ブースには800名を超える来場者が訪れ、実際に触れることのできる展示を通じて、生物多様性保全への理解を深めてもらう機会となりました。

サステイナビリティ推進機構は、今後も国際的なイベントへの出展などを通じて、本学のサステイナビリティ推進に資する取組を積極的に発信してまいります。

^{*1} 自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。

^{*2} 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際的な目標のこと。

（サステイナビリティ推進機構）



NATURE TECH! の様子



ステージで講演する愛甲総長補佐



本学のブースの様子



ブースでの展示品

札幌キャンパス構内にウォータースタンド増設、マイボトル携帯を呼びかけ

7月8日（水）、サステナビリティ推進機構は、ウォータースタンド株式会社及び北海道大学生生活協同組合（以下「北大生協」という。）の協力を得て、北大生協の4店舗に「浄水型ウォータースタンド」を増設しました。

本取組は、本学構内におけるCO₂排出量の削減を目的として実施しています。ペットボトル飲料は、製造から輸送までの過程でCO₂を排出しますが、これをマイボトルと給水スポットに置

き換えることで、ペットボトルの使用量を削減し、環境負荷及びCO₂排出量の削減につながります。

サステナビリティ推進機構では、令和6年に北大生協北部食堂へウォータースタンドを試験的に設置しました。令和7年6月から令和8年5月までの1年間で、利用量は24,722ℓに達し、130.45t-CO₂の削減につながりました。この結果を受け、構内のウォータースタンドの増設に至りました。

「浄水型ウォータースタンド」は水道直結型の給水設備で、ナノトラップフィルターを通すことで、ミネラル分はそのままに、水本来のおいしさを楽しむことができ、持参したマイボトルに直接給水することができます。

サステナビリティ推進機構は、今後も構内のCO₂排出量の削減や環境負荷低減に取り組んでまいります。

（サステナビリティ推進機構）

浄水型ウォータースタンド

設置場所：北大生協が運営する以下の食堂等

（今回増設）クラーク食堂、農学食堂、レバレッジズ 中央食堂、北キャンパスレストラン「ぼぶら」
（既設）HBAライラック食堂（北部食堂）

利用時間：食堂営業時間等に準じます

設置スタンド：Trinity（ウォータースタンド株式会社）

温度仕様：常温水・冷水



増設したウォータースタンド
（レバレッジズ中央食堂）

持ち歩こう、マイボトル。 減らそう、CO₂

Carry a Reusable Bottle. Cut CO₂ Emissions.

ー ウォータースタンド設置の寄付のお願い ー

Donations Needed for Water Station Installation

ペットボトル飲料は、製造から輸送までの過程でCO₂を排出します。
マイボトルを利用することで、ペットボトルの使用量を減らし、
環境負荷の低減とCO₂排出量の削減につながります。
このウォータースタンドは、無料で利用できます。
構内のウォータースタンドは、皆さまの寄付によって支えられています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

PET-bottled beverages generate CO₂ emissions during production and transportation.
Using a reusable bottle helps reduce PET bottle consumption, environmental impacts, and CO₂ emissions.
This water station is free to use.
The water stations on campus are supported by donations from users.
Thank you for your understanding and support.

未来のために、
今日からできること。

マイボトルで 給水しよう！

浄水型ウォータースタンドで
常温水・冷水が給水できます

マイボトルを
持てずに
給水

① クラーク食堂
② 農学食堂
③ レバレッジズ中央食堂
④ HBAライラック食堂
⑤ 北キャンパス
レストラン「ぼぶら」

ご寄付はお近くの
PayPayのQRコードから！

Donations are greatly appreciated.
Please use the nearby QR code
if you wish to contribute.

10円
10 yen

北海道大学
サステナビリティ推進機構
INSTITUTE FOR THE ADVANCEMENT OF SUSTAINABILITY

お問合せ・連絡先
北海道大学サステナビリティ推進機構
https://www.sustainability.hokudai.ac.jp
contact@sustainability.hokudai.ac.jp

ウォータースタンドに設置しているPOP

北海道マラソン連携プロジェクト活動の一環として、総合博物館中庭を一般公開

サステナビリティ推進機構は、北海道マラソン組織委員会と連携し、令和6年度から「きたみてガーデンSDGs農園」（以下「SDGs農園」という。）プロジェクトを実施しています。今年度も本プロジェクトを継続実施しており、8月30日（日）開催の北海道マラソン2026に向けて活動を進めています。この度、7月22日（水）から総合博物館中庭の一般公開を開始しました。

本プロジェクトでは、札幌キャンパスで回収した落葉から生成した腐葉土を活用し、総合博物館の中庭に「SDGs農園」を造成しています。SDGs農園の維持管理は、本学の教職員、北海道マラソン組織委員会及び学生主体のボランティアグループ「きたみてガーデン」が協力して行っており、キャンパ

ス内における持続可能な資源循環の実践例として注目されています。

SDGs農園で収穫された野菜は、北海道マラソン前日に開催されるランナー向け企画「カーボローディングパーティー」の料理に使用されるほか、総合博物館内の「ミュージアムカフェぼらす」においても、マラソン開催期間に合わせたメニューに活用されます。また、SDGs農園での野菜栽培には地域の子どもの園児にも協力いただいております。総合博物館中庭は世代を超えた交流の場にもなっています。

こうした実績を踏まえ、本取組を市民の皆様に広く知っていただくとともに、総合博物館中庭を来館者の交流の場として活用していただくため、この度一般公開することとしました。公開

に当たっては、キャンパスの維持管理のためにやむを得ず伐採した樹木をチップ化して敷設するなど、環境に配慮した整備を行いました。総合博物館中庭が、資源循環について考える場となるとともに、持続可能性への関心を高めるきっかけとなることを期待しています。

サステナビリティ推進機構及び北海道マラソン組織委員会は、今後も連携を深めながらSDGs農園プロジェクトを継続し、地域と大学が協働する持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）

総合博物館中庭の一般公開の概要

公開時間：総合博物館開館日の10時～17時（秋頃公開終了予定）

入場方法：総合博物館内ミュージアムカフェ「ぼらす」カウンター横の入口からお入りください。

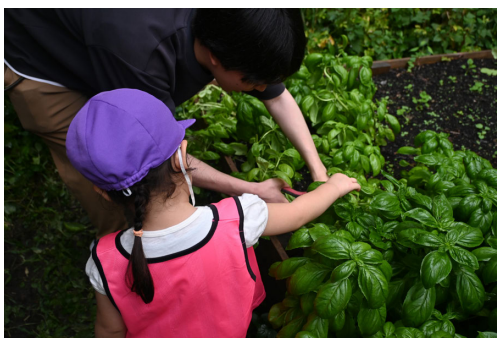
お 願 い：総合博物館中庭内の植物には触れないなど、ご配慮をお願いいたします。



一般公開中の総合博物館中庭



「きたみてガーデンSDGs農園」の様子



総合博物館での交流の様子（令和7年度）



総合博物館中庭の公開について

サイエンスレクチャー2026「『生まれる』ってどういうこと？ 生命誕生のサイエンス」を開催

7月4日（土）、オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」にて、サイエンスレクチャー2026「『生まれる』ってどういうこと？ 生命誕生のサイエンス」が開催され、中高生18名が参加しました。北海道大学病院の産科・周産母子センターの馬詰 武准教授と、同病院産科の玉城 良医師が登壇し、妊娠と出産をサイエンスの視点から解説し、生命誕生のメカニズムを紹介しました。受講生は、出産時に妊婦に行う点滴の準備や分娩の介助など、豊富なシミュレーション体験を通して、妊娠や出産への理解を深めました。

馬詰准教授は、母体と胎児をつなぐ胎盤の構造など、妊娠のメカニズムを解説し、妊娠に関する知識を動画などで紹介しました。また、おなかを開いて赤ちゃんを出す帝王切開も分娩方法の一つであることについて解説しました。東アジアでは半数を超える割合で帝王切開が行われている地域があることなどを説明し、どんな産み方も母と子の命を守る尊い出産に変わりはないことを伝えました。

玉城医師は、妊婦健診で行うエコー検査で、赤ちゃんの成長や健康を確認することを説明しました。おなかの中で赤ちゃんが聞いている音を会場に流し、受講生が耳を澄ませる場面もありました。また、おなかの中の赤ちゃんへ輸血を行う様子なども映像で紹介し、出産までの道のりを支える北海道

大学病院の高度な周産期医療の現場を伝えました。

体験学習では、受講生一人一人に市販の妊娠検査薬が配布され、実際の使い方を学びました。また、エコー検査用の機器を使って自分の体の血管などを観察し、点滴の準備にも取り組むなど、受講生は現場で行われる医療行為を真剣な表情で学んでいました。さらに、分娩シミュレーターを用いて人形による分娩介助を体験した際には、赤ちゃんが出てきた瞬間に受講生同士が「おめでとう！」と声を掛け合う姿が見られました。

最後に馬詰准教授は、「医療現場で重宝されるのは、人より抜kindでた長所がある人。自分の長所を伸ばすため、好きなことに取り組んでほしいと思います」と受講生へメッセージを伝えました。

参加者からは、「赤ちゃんはたくさんの人に助けられて生まれてくることを知った」「妊娠・分娩は怖いイメージがあったけど、新しい命に関わる大切なことだと知った。自分も個性を生かして人の役に立つ仕事がしたいと思った」等の感想が寄せられました。

講義終了後は、参加者に認定証書が渡され、全員で集合写真を撮影しました。

（広報・社会連携本部）



講演する馬詰准教授（中央）



熱心に耳を傾ける受講者



胎児の模型を使って説明する玉城医師



分娩シミュレーターを使った分娩介助体験の様子

サイエンスレクチャー2026*「『生まれる』ってどういうこと？ 生命誕生のサイエンス」

日時：2026年7月4日（土） 14時00分～16時30分

場所：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」

対象：中学生、高校生

主催：北海道大学、読売新聞北海道支社

後援：札幌市教育委員会

協力：北海道大学COI・NEXT

*サイエンスレクチャーは、北海道大学と株式会社読売新聞東京本社北海道支社との包括連携協定のもとで開催しています。

2026年度北海道大学採用直結型企業面談会を開催

6月13日（土）・14日（日）に、北海道大学採用直結型企業面談会を開催しました。

本面談会はキャリアデザインセンターと校友会エルムが主催する合同企業面談会であり、全学的な就職支援イベントです。6月時点で就職活動を継続して行っている学生に向けたイベントのため、学生が焦らず企業・業界研究を行い、本当に自分に合った企業と出会い、選考イメージまでできることを目的としています。

クラーク会館を会場に、北大生の採用に積極的な88社の企業・団体が参加

し、採用担当者が25分の説明を5回行い、希望する学生は個別の面談・面接を受けることができるコーナーを設けました。

学生は1日で最大10社の説明を聞くことができ、延べ580名が参加しました。学内での対面開催のため、採用担当者や北大OB・OG社員へ気軽に質問できる機会となり、参加学生からは「新たな企業と関わりを持てた」「たくさん企業の方とお話できた」といった感想がありました。

また、「興味の幅を広げることができた」「業界知識の習得や就活のイメ

ージを立てることができた」などの感想もあり、企業・業界の理解を深める機会になるとともに、「エントリーシートなしで企業の方とお話できた」「実際に選考に進むことができた」と、採用直結型ならではのメリットが生かされた、学生満足度の高いイベントとなりました。

キャリアデザインセンターでは、本面談会が企業・学生双方にとってより良いイベントとして開催できるよう引き続き検討してまいります。

（教育イノベーション機構）



面談会の様子



相談コーナーの様子

学生相談支援センターが「第1回学生相談フォーラム」を開催

7月1日（水）、学生相談支援センター学生相談ユニット主催の「第1回学生相談フォーラム」を、学生交流ステーションを主会場とし、函館キャンパスをオンラインで結ぶハイブリッド方式で開催しました。当日は29名の教職員が参加し、学生支援に携わる各部署の活動紹介や意見交換を通じて、全学的な連携のあり方について理解を深めました。

本フォーラムは、組織改編に伴い教育イノベーション機構に設置された、学生相談支援センターが初めて主催したもので、学生相談に関わる本学の教職員が互いの活動や役割を共有し、部署を越えた連携を促進することを目的として開催しました。

冒頭では、山本文彦学生相談支援センター長より、少子化が進む中で、学生が安心して学び、自らの力を十分に発揮できる環境を整備することは大学の重要な責務であり、そのような支援体制の充実は大学の魅力向上にもつな

がるとの挨拶がありました。

続いて、キャリアデザインセンター、学務部学生支援課、文学部・文学院・法学部・法学研究科学生相談室、理学研究院・学生生活相談室、工学系部局なんでも相談室、函館キャンパス学生相談室、国際広報メディア・観光学院学生相談室、ハラスメント相談室、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、教育学修支援センター、学生相談支援センターから、それぞれスタッフ紹介と令和7年度の活動報告が行われました。各部署の特色や支援内容、相談の傾向などが紹介され、参加者は学生を支える多様な支援体制について理解を深めました。昨年度開設された、学生相談窓口「HOSSO／ホッソ（Hokudai One-stop Student Support Office）」における取組についての紹介からは、予約なしでも気軽に立ち寄ることができるため、学生が支援につながる入口として今後の活用が期待されることが共有されました。

残りの時間では、「学生支援とは？」をテーマに4～5名のグループに分かれて意見交換を行いました。各部署の立場や専門性を踏まえながら、学生一人ひとりの状況に応じた支援の在り方や、より円滑な連携に向けた工夫について活発な意見交換が交わされました。日頃は接点の少ない部署同士のつながりが生まれ、互いをより身近に感じられる機会となりました。

参加者からは、「各部署の特徴や役割を知ること、相談内容に応じた適切な紹介や連携をイメージできた」「部署間の連携に加え、担当者同士が日頃から気軽に相談しあえるように、ネットワークづくりを進めていきたい」などの意見がありました。

学生相談支援センターでは、今後も学生支援に関わる教職員が集い交流できる場を企画していく予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

（教育イノベーション機構）

■ 部局ニュース

「Study+Work in Sweden スウェーデン留学+キャリアフェア in Hokkaido」を開催

6月16日（火）、オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」において、「Study+Work in Sweden スウェーデン留学+キャリアフェア in Hokkaido」が開催されました。本フェアは、スウェーデン大使館、北海道大学、スウェーデン文化交流協会の主催、北海道スウェーデン協会及びスウェーデン交流センターの協力によるものです。

「Study+Work in Sweden」は令和6年に始まり、初年度は東京と大阪、翌年には東京、大阪、福岡で開催されました。今回は北海道大学が共同主催に加わり、経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）も開催に協力しました。

本フェアは、個別相談会、講演会、交流会の3部構成で実施され、約130名が参加しました。

個別相談会では、スウェーデン大使館職員やスウェーデンの大学・企業による10のブースが設けられ、留学や就職に関心を持つ参加者からの質問や相談に応じました。

講演会は、スウェーデン公使参事官ヨハンナ・リンドクヴィスト氏による開会の言葉と、久保淳司経済学研究院長による挨拶で始まりました。続いて、スウェーデンの大学・企業の広報担当者7名と、留学経験を持つ本学の学部生・助教3名が登壇し、スウェーデンで学び、働くことについて、それ

ぞれの立場から発表しました。

本講演会は、新渡戸カレッジのポイント付与対象行事に認定され、多くのカレッジ生も来場しました。参加者は、登壇者の話に熱心に耳を傾けていました。

交流会は立食形式で行われ、登壇者、スタッフ、参加者が和やかに歓談し、活発な情報交換が行われました。スウェーデンへの留学と同国でのキャリア形成について理解を深める、実りある機会となりました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



リンドクヴィスト氏の開会の言葉



久保経済学研究院長の挨拶

会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催

7月2日（木）に、会計専門職大学院と日本公認会計士協会北海道会との共催により、「公認会計士制度説明会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて実施しました。この説明会は、学部・学院を問わず広く本学の学生へ公認会計士制度についての理解を深めてもらうことを主たる目的としています。

日本公認会計士協会北海道会の新木

亘広報委員長の司会のもと、同会の柴本岳志会長による趣旨説明、会計専門職大学院の春日部光紀院長の挨拶の後、同会の山本悠雅、笠井綾乃両氏より「公認会計士の仕事と魅力」と題した講演が行われました。講演では、監査法人における業務経験や活躍の場についての説明のほか、学生時代の過ごし方や受験勉強に臨む際の心構えとい

った、参加学生に親近感をもたせるような話題も提供されました。

講演直後に実施したアンケートには89件もの積極的な質問が寄せられ、山本氏、笠井氏のほか柴本会長からも熱のこもった解説が行われるなど、盛会のうちに終了しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演を聴く参加者

会計専門職大学院が特別講演会を開催

7月16日（木）に、会計専門職大学院主催による「特別講演会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて実施しました。

今回は、公認会計士・監査審査会・常勤委員である蟹江 章先生（北海道大学名誉教授）をお招きし、「拡大する公認会計士の役割」という表題で講演が行われました。この特別講演会は、主な対象を学部生とし、加えて会

計専門職大学院や広く本学の学生も自由に参加できるイベントです。公認会計士の魅力を理解してもらい、将来の職業を考えるうえで参考となる情報提供を主たる目的としています。

講演では、公認会計士・監査審査会、公認会計士制度、公認会計士という職業、公認会計士試験という四つの切り口から、幅広い内容について説明されました。職業専門人としての公認

会計士の魅力や社会的使命について理解を深める機会となりました。約110名の学生と数名の教員が参加し、活発な質疑応答も行われました。

会計専門職大学院では、学生が社会問題に関心を抱き、将来を考える良い機会になることを期待し、今後も様々な講演会を企画していく予定です。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する蟹江先生



講演会の様子

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

7月22日（水）、北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において、医学院・医学研究院・医学部、歯学院・歯学研究院・歯学部、保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科及び北海道大学病院は、医学及び歯学の教育・研究のため尊い御遺体をささげられた

御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、田中伸哉医学院長・医学研究院長・医学部長、飯村忠浩歯学院院长・歯学研究院長・歯学部長、石津明洋保健科学院長・保健科学研究院長・医学部保健学科長、南須原康行北

海道大学病院長ら20名が参列し、参列者全員による黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



挨拶をする田中医学院長・医学研究院長・医学部長



献花の様子

医学研究院にサイエンスカフェを開設

医学研究院では、令和7年度に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の補助金により新たに設置された医学研究院連携研究センター「医学研究AI支援部門」のメンバーが中心となり構想したサイエンスカフェを開設しました。

サイエンスカフェは同事業の重要な柱の一つであり、研究者同士の交流や新たな発想の創出を目的とし、コーヒーなどのドリンクを片手に気軽に語り合える交流スペースです。専門分野や職種、経験年数の垣根を越えた「雑談」を通じて、新たなアイデアや融合

研究テーマ、共同研究のきっかけ等が生まれることが期待されています。

6月29日（月）にはオープニングセレモニーを開催し、田中伸哉医学研究院長をはじめとした医学研究AI支援部門の関係者が参加しました。会場ではサイエンスカフェの趣旨や今後の展望が紹介され、参加者同士が交流を深める機会となりました。

サイエンスカフェは、医学研究AI支援部門の関係者をはじめ、医学研究院及び北海道大学病院の教職員、大学院生が利用でき、コーヒーを飲みながらひと息つく場としてはもちろん、ベテ

ラン研究者から若手研究者までが自由に語り合い、日常的な会話から新たな研究の発想へとつながる場となることを目指しています。

医学研究院では、サイエンスカフェという新たな交流の場を活用しながら、研究者同士のつながりを深めるとともに、AIやデータ活用による研究力の向上と異分野連携を促進し、さらなる医学研究の発展に取り組んでいきます。

（医学研究院）



挨拶する田中医学研究院長



交流する参加者の様子

保健科学研究院がHealth Sciences Evening Seminar by Visiting Scholars form Indiaを開催

JST LOTUSプログラムは、日本とインドの研究代表者が主導する共同研究プロジェクトで、インドの若手研究者を招へいすることにより、両国間の研究連携強化と頭脳循環を目的とした事業です。今年度、保健科学研究院からは3件のプロジェクトが採択されました。このたび、2名のインド側研究代表者が来札した機会を捉え、7月15日（水）に保健科学セミナーを開催しました。

はじめに、1件目のプロジェクトを代表する杉森博行准教授より、インド工科大学（以下「IIT」という。）ハイデラバード校博士課程大学院生のパヴァン・クマー・カヴェ氏による、AIを活用したストレス環境下におけるヒトと機械のインタラクションに関する研究プロジェクトが紹介されました。続いて、2件目のプロジェクトを代表する池田敦子教授より、IITマドラス校のアス

ウィン・ギリ博士による大気汚染及び気候変動下における健康課題に関する研究プロジェクト、同校のシヴァ・ナゲンドラ教授から、室内環境改善に向けた工学的アプローチとその社会実装に関して紹介されました。最後に、3件目のプロジェクトを代表するボメゴウダ・シッダバサーブ・ゴウダ准教授より、IITハイデラバード校博士課程大学院生のガネシャ・シュクラ氏による、粘液細菌ゲノムの計算解析による新規天然物の同定に関する研究、及び同校のガウラフ・シャルマ助教による、粘液細菌の細胞表面多糖類の進化に関する研究について紹介されました。

本セミナーで紹介された研究は、AI、環境健康科学、室内環境工学、天然物探索など、それぞれ異なる科学的課題を対象としていましたが、いずれも最先端の研究とイノベーション、そして国際連携を通じて人々の健康と

福祉の向上に貢献するという共通の理念のもとで推進されています。本セミナーが、これらの先進的な研究活動への理解を深める機会になるとともに、新たな共同研究の創出を促し、保健科学研究院とインドの研究機関との間における知識・アイデア・人材のさらなる交流と循環の強化につながることを期待されます。

セミナー終了後には、インド、バンラデシュ及びガーナの料理が振る舞われ、参加者は活発な交流を楽しみながら、各国の食文化にも触れることができました。研究交流と国際親善を深めるとともに、参加者の知的好奇心と食欲の双方を満たす有意義なイブニングセミナーとなりました。

（保健科学研究院）



集合写真



研究紹介



多国籍料理を楽しむ参加者

第46回 あぐり大学「食べ物の味の感じ方」を開催

7月18日（土）に、農学部においてあぐり大学を開催しました。

あぐり大学は、北海道大学農学部と北海道新聞編集局が平成26年度から一緒に行っている連続親子講座で、「食と農」について、頭と体を使って学ぶ体験型講座です（農学同窓会後援）。農学部の複数の学科から学生もスタッフとして参加しています。

第46回となる今回は、「食べ物の味の感じ方」というタイトルで、食品機能化学研究室の加藤英介准教授があぐ

り博士を担当しました。

私たちが毎日食べている食事は、食材や料理の仕方によって色々な味がします。今回は、基本的な味の種類や味を感じる仕組みについて学び、私たちがどのように味を感じているのか、実験を通して味の感じ方について体験しました。

最初に、「味とは何か」についてあぐり博士がクイズを交えながら分かりやすく解説しました。参加者たちは、舌の表面で感じる5種類の基本味につ

いて学び、味覚成分やその受容体についても踏み込んで学びました。その後、参加者たちは味溶液を使って、基本味に加えて味の相互作用や味の変化についても体験しました。

参加した子どもたちは味の体験をとても楽しんでいる様子でした。また、保護者もあぐり博士の解説を聞きながら熱心にメモを取る姿が多くみられました。

（農学部）



あぐり博士（加藤准教授）の説明を聞く親子



味の感じ方を実験で体験する子どもたち

「第17回国立大学共同利用・共同研究拠点協議会総会」を開催

低温科学研究所は、令和8年度の国立大学共同利用・共同研究拠点協議会（以下、「拠点協議会」という。）の会長校として、7月6日（月）、札幌グランドホテルにおいて「第17回国立大学共同利用・共同研究拠点協議会総会」を開催しました。総会は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で行われ、全国の拠点協議会構成員及び陪席者等約350名が出席しました。

拠点協議会は、我が国の学術研究の基盤強化と新たな学術研究の展開を目的として、平成22年4月に発足しました。個々の大学の枠を越えて共同利用・共同研究を行う体制として文部科学大臣が認定した国立大学附置研究所及び研究センターである拠点が集結し、一層高い次元で共同研究を推進しています。令和8年度現在78拠点（31大学の95研究所・センター）が参画しています。

当日は、はじめに、全国の国立大学

法人に設置された附置研究所及び研究センターの所長及びセンター長で構成される「国立大学附置研究所・センター会議総会」が開催され、続いて、文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課から石田善顕課長、細野亮平課長補佐、南井大輝係員を迎え、「文部科学省政策動向説明会」を開催しました。

説明会では、石田課長から、第7期科学技術・イノベーション基本計画等の科学技術関係施策の動向、国立大学法人等改革基本方針等の国立大学法人等の機能強化、共同利用・共同研究拠点等の機能強化及び第5期中期目標期間開始に向けた国立大学の共同利用・共同研究拠点の期末評価及び新規認定の動向について説明があり、第5期の共同利用・共同研究拠点の在り方等について、活発な意見交換が行われました。

説明会終了後には、拠点協議会総会を開催し、会長校を代表して資金清博総長が挨拶を行い、その後、拠点協議

会会長である山口良文低温科学研究所長の進行により、令和8年度の拠点協議会の運営方針や活動計画について審議を行いました。

総会の終了後には、情報交換会を開催し、119名が参加しました。開会にあたって、国立大学附置研究所・センター会議会長校である東京科学大学の太田尚登理事長から挨拶があり、続いて、文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課の石田課長から祝辞をいただきました。会場では終始和やかな雰囲気の中で交流が行われ、共同利用・共同研究拠点の今後の発展や連携強化に向けて活発な情報交換が行われました。最後に、瀬戸口剛理事・副学長の閉会挨拶をもって、盛会のうちに終了しました。

（低温科学研究所）



文部科学省政策動向説明会にて挨拶する
文部科学省大学研究基盤整備課石田課長



共同利用・共同研究拠点協議会総会にて挨拶する資金総長



共同利用・共同研究拠点協議会総会にて議長として
進行を行う山口所長（前列左）



情報交換会にて挨拶する瀬戸口理事・副学長

夏期国際シンポジウム「グローバルリスクとしてのユーラシア：核、安全保障、国境」の開催

7月16日（木）・17日（金）に、スラブ・ユーラシア研究センターは、本学公共政策大学院及び長崎大学グローバルリスク研究センターとの共催で、夏期国際シンポジウムをハイブリッド形式で開催しました。近年、ロシアによるウクライナ侵攻や中東での紛争など、その影響は各地へ波及しています。本シンポジウムでは、波及的影響が東欧から東ユーラシア地域までどのように現れ、受け止められているかについて議論が行われました。

第1セッションでは、米国ジャーナリ

ストのトッド・ミラー氏と、ロシアの移民研究者セルゲイ・リャザンツェフ氏が、技術導入による国境管理の変容と新たなリスクについて論じました。第2、第3セッションでは、経済制裁下にあるロシアの現状分析や、COVID-19とウクライナ侵攻が東欧諸国の福祉政策に与えた変化について議論されました。

2日目の第4セッションでは、ユーラシアにおける核兵器の歴史と展望について、市民の認識を分析するミクロな視点から議論しました。また、元国家安全保障局長の岡野正敬氏による基調

講演が行われ、国際情勢が混乱する中での国際ルール維持の重要性が強調されました。第5、第6セッションでは、安全保障上の危機が個人の親密な領域をいかに政治化するか、河川をめぐる関係諸国の政治について検討しました。

会場では50名超、オンラインでは60名超の参加があり、活発な質疑応答が行われ、今日的課題について理解を深める貴重な機会となりました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



講演するスラブ・ユーラシア研究センターの岩下明裕特任教授



キーノートセッションにて講演する岡野氏

北海道大学病院で「第67回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催

7月29日（水）に、北海道大学病院アメニティホールにおいて、「第67回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。「ふれあいコンサート」は、例年夏と冬の2回、患者サービス推進委員会の依頼に基づき病院の多職種から編成された「作業部会」が中心となって企画・運営されています。

今回のイベントは、色とりどりの七夕飾りや願い事を書いた短冊が会場を彩る、華やかな雰囲気の中で開始されました。

コンサート開演前から行われる縁日コーナーでは、入院中の患者さん向けに、輪投げや人形すくい、顔出しパネルでのチェキによる写真撮影場所が設けられ、患者さんたちは、配布された特製うちわを手にして、思い思いに、

盛夏の雰囲気を楽しんでいました。

本間明宏副病院長による「不安を抱えながら過ごす入院生活の中で、ひとときの気分転換となり、明日からまた前向きな気持ちで過ごすきっかけになれば幸いです」との挨拶で開幕したコンサートでは、本学公認学生団体「北大奇術研究会」によるダイナミックなマジックやジャグリングが披露され、圧巻のパフォーマンスに会場から大きな拍手が沸き起こりました。続いて行われた当院研修医でアイルランド音楽演奏者、内藤希花医師によるアイリッシュハーブ、コンサーティーナ、フィドル（バイオリン）演奏では、三つの楽器が奏でる美しい音色が会場を魅了しました。小児科の永井礼子特任助教、横川涼介医師もピアノ伴奏で参加

し、温かみのある演奏は、会場全体を穏やかな雰囲気でも包み込み、特別な時間を演出しました。イベントの合間にはお楽しみ抽選会も実施され、患者さんたちに楽しいひとときをお届けしました。

イベントの様子は、病室にもテレビ放送され、ホールに降りることができない患者さんにも、ひとときの清涼を届けることができました。

最後に、城石陽子看護部長により「今日の時間が、つらいことの多い入院生活の中で、少しでも楽しいと感じていただけると嬉しく思います」との閉会の挨拶があり、イベントは、盛況のうちに終了しました。

（北海道大学病院）



本間副病院長によるお楽しみ抽選会



北大奇術研究会によるパフォーマンス



内藤医師による演奏



城石看護部長挨拶

「研究者と極秘調査!?カエルとおたまジャクシの謎にせまれ!」 を北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林で開催

7月11日(土)に和歌山研究林で自然体験イベント「研究者と極秘調査!?カエルとおたまジャクシの謎にせまれ!」を開催しました。本イベントは、和歌山研究林所属の野田 叡寛研究員と福山 伊吹JSPS特別助教が著者となった生物図鑑「カエルとおたまジャクシハンドブック」の出版を記念して開催したもので、紀南地方や大阪府の小学生(保護者を含む)から一般の方まで、午前・午後あわせて総勢60名の方が参加しました。

当日は、庁舎にて生物捕獲の注意事項の説明の後、参加者は網と飼育ケースを持って近くの水田へ移動し、様々な種類のカエルやおたまジャクシを捕

獲して、ハンドブックの検索表をもとに、それらの体長や模様、目の位置等を観察しながら同定を行いました。

なお、同定の時間は、保護者の方には子どもと離れて別室へ移動していただき、保護者の方向けに和歌山研究林長の岸田 治教授による動物の生態に関する講話を行いました。子どもだけで同定に挑戦する時間を設けたことについて、保護者の方からも評価をいただき、この他にも「普段は何気なく見ている自然の中にも専門的な視点から見れば多様な生物や生態系があることを普通の親は教えてあげられないです。そういうことを子どものうちに経験しているだけで、自然を大切に

たり、自分も自然に生かされていることを知り、将来の道が広がったりするのではないかと考えております」等の感想が寄せられました。このイベントを通じて、子どもたちをはじめとする地域の方々に研究の面白さや自然観察の魅力を伝える機会を提供するとともに、地域を舞台とした教育コンテンツづくりの実践的な知見を得ることで、今後の教育プログラムの充実や企画運営に関するスキル向上にもつながりました。

(北方生物圏フィールド科学センター)



野田研究員と福山JSPS特別助教による解説の様子



水田での生物捕獲の様子



同定の様子



岸田教授による保護者向け講話の様子

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
8.7.27	ノースウェスト大学Bismark Tyobeka 学長他5名	今後の交流に関する懇談



Bismark Tyobeka ノースウェスト大学学長（中央）

（国際部国際連携課）

■人事

令和8年7月31日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 （転出） 金融庁	亀 岡 典 之	大学院経済学研究院教授

令和8年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 アイソトープ総合センター長 （期間：令和10年3月31日まで）	工 藤 興 亮	大学院医学研究院教授
【教授】 大学院経済学研究院教授	國 金 千 裕	金融庁証券取引等監視委員会事務局開示検査課課長補佐

部局長等（再任）紹介

令和8年8月1日付

アイソトープ総合センター長に

く どう こう すけ
工藤 與亮 教授

工藤與亮教授は、令和6年8月1日からアイソトープ総合センター長を務め、令和8年7月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

新任教授紹介

令和8年8月1日付



経済学研究院教授に

くにかね ちひろ
國金 千裕 氏

会計情報部門会計情報分野

最終学歴

早稲田大学大学院会計研究科専門職学位課程修了（平成29年3月）

会計修士（専門職）（早稲田大学）

専門分野

企業法

令和7年度卒業者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学 部

令和8年5月1日現在

	文学部 人数(名) (うち女子)	教育学部 人数(名) (うち女子)	法学部 人数(名) (うち女子)	経済学部 人数(名) (うち女子)	理学部 人数(名) (うち女子)	医学部		歯学部 人数(名) (うち女子)	薬学部		工学部 人数(名) (うち女子)	農学部 人数(名) (うち女子)	獣医学部 人数(名) (うち女子)	水産学部 人数(名) (うち女子)	合 計 人数(名) (うち女子)
						医学科 人数(名) (うち女子)	保健学科 人数(名) (うち女子)		薬科学科(4年制) 人数(名) (うち女子)	薬学科(6年制) 人数(名) (うち女子)					
(A) 卒業者数	194 (85)	63 (30)	229 (68)	202 (49)	310 (74)	109 (29)	175 (126)	41 (17)	45 (14)	31 (12)	681 (96)	208 (72)	44 (23)	191 (52)	2,523 (747)
(B) 就職希望者数	122 (58)	42 (20)	171 (51)	147 (34)	38 (5)	1 (0)	105 (85)	0 (0)	0 (0)	22 (8)	75 (15)	46 (22)	34 (17)	45 (12)	848 (327)
(C) 就職者数	117 (57)	41 (20)	156 (47)	140 (30)	36 (5)	1 (0)	103 (85)	0 (0)	0 (0)	22 (8)	68 (15)	43 (21)	33 (17)	43 (12)	803 (317)
(内数) 道内就職者	34 (19)	8 (3)	32 (9)	32 (7)	9 (1)	0 (0)	69 (56)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	11 (0)	12 (4)	6 (3)	12 (2)	230 (105)
有 職 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
(D) 就職率(%)	95.9 (98.3)	97.6 (100.0)	91.2 (92.2)	95.2 (88.2)	94.7 (100.0)	100.0	98.1 (100.0)	—	—	100.0 (100.0)	90.7 (100.0)	93.5 (95.5)	97.1 (100.0)	95.6 (100.0)	94.7 (96.9)
昨年度の就職率(%)	93.5 (94.0)	88.6 (83.3)	91.4 (92.0)	98.7 (100.0)	90.9 (100.0)	—	86.6 (90.8)	—	80.0 (100.0)	100.0 (100.0)	95.5 (92.9)	84.2 (88.2)	100.0 (100.0)	83.3 (90.0)	92.2 (92.6)
(E) 進 学 者 数	58 (22)	18 (9)	51 (15)	29 (7)	265 (68)	0 (0)	61 (33)	0 (0)	45 (14)	7 (2)	591 (79)	159 (49)	9 (5)	141 (39)	1,434 (342)
(内数) 大学院	58 (22)	17 (8)	51 (15)	29 (7)	264 (68)	0 (0)	54 (26)	0 (0)	45 (14)	7 (2)	591 (79)	159 (49)	9 (5)	141 (39)	1,425 (334)
(内数) 進学希望者数	53 [(21)]	15 [(7)]	33 [(10)]	21 [(5)]	249 [(65)]	0 [(0)]	50 [(23)]	0 [(0)]	43 [(14)]	6 [(2)]	569 [(77)]	149 [(46)]	9 [(5)]	128 [(36)]	1,325 [(311)]
大 学 学	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (8)
(内数) 進学希望者数	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	1 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	1 [(0)]
(F) そ の 他	19 (6)	4 (1)	22 (6)	33 (12)	9 (1)	108 (29)	11 (8)	41 (17)	0 (0)	2 (2)	22 (2)	5 (2)	2 (1)	7 (1)	285 (88)

※A=C+E+F ・ D=C÷B×100
※医学部医学科は卒業後2年間、歯学部は卒業後1年間の臨床研修期間がある。

修士課程

	法学 研究科 人数(名) (うち女子)	水産 科学部 人数(名) (うち女子)	環境 科学部 人数(名) (うち女子)	理学院 人数(名) (うち女子)	農学院 人数(名) (うち女子)	生命科学学院 人数(名) (うち女子)	教育学院 人数(名) (うち女子)	国際広報 メディア・観光学院 人数(名) (うち女子)	保健 科学部 人数(名) (うち女子)	工学院 人数(名) (うち女子)	総合 化学部 人数(名) (うち女子)	経済学部 人数(名) (うち女子)	医学院 人数(名) (うち女子)	医学院 (公衆衛生学 コース1年) 人数(名) (うち女子)	医理工 学院 人数(名) (うち女子)	国際食 資源学部 人数(名) (うち女子)	文学部 人数(名) (うち女子)	情報科学部 人数(名) (うち女子)	合 計 人数(名) (うち女子)
(A) 修了者数	16 (7)	106 (26)	153 (43)	118 (16)	147 (52)	107 (45)	37 (22)	50 (35)	47 (26)	357 (52)	138 (37)	28 (12)	17 (12)	0 (0)	10 (2)	15 (6)	94 (48)	189 (16)	1,629 (457)
(B) 就職希望者数	10 (5)	90 (24)	113 (31)	70 (8)	124 (43)	67 (33)	27 (17)	43 (29)	40 (23)	314 (45)	107 (31)	17 (9)	10 (7)	0 (0)	7 (1)	11 (4)	47 (29)	158 (13)	1,255 (352)
(C) 就職者数	5 (3)	87 (23)	103 (28)	69 (8)	118 (40)	66 (32)	24 (14)	34 (24)	38 (23)	308 (44)	103 (31)	16 (8)	9 (6)	0 (0)	7 (1)	10 (4)	42 (27)	154 (13)	1,193 (329)
(内数) 道内就職者	0 (0)	10 (3)	15 (4)	18 (2)	17 (7)	4 (2)	14 (8)	5 (3)	14 (9)	27 (7)	8 (6)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	3 (2)	8 (7)	14 (0)	162 (61)
有 職 者	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (4)	1 (1)	2 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	18 (10)
(D) 就職率(%)	500 (600)	96.7 (95.8)	91.2 (90.3)	98.6 (100.0)	95.2 (93.0)	98.5 (97.0)	88.9 (82.4)	79.1 (82.8)	95.0 (100.0)	98.1 (97.8)	96.3 (100.0)	94.1 (88.9)	90.0 (85.7)	—	100.0 (100.0)	89.4 (93.1)	97.5 (100.0)	95.1 (100.0)	95.1 (93.5)
昨年の就職率(%)	66.7 (81.8)	98.8 (95.8)	92.7 (92.6)	95.9 (92.9)	96.9 (96.4)	96.3 (100.0)	81.8 (79.2)	83.8 (84.0)	82.8 (76.5)	97.7 (93.9)	95.4 (89.3)	83.3 (72.7)	94.7 (100.0)	—	100.0 (100.0)	75.0 (57.1)	84.6 (73.1)	100.0 (100.0)	94.6 (88.9)
(E) 進 学 者 数	4 (1)	15 (2)	35 (10)	44 (6)	20 (7)	37 (12)	10 (5)	3 (3)	6 (3)	41 (6)	29 (6)	3 (0)	6 (5)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	36 (13)	28 (3)	323 (84)
(内数) 大学院	4 (1)	15 (2)	35 (10)	44 (6)	20 (7)	37 (12)	10 (5)	3 (3)	6 (3)	41 (6)	29 (6)	3 (0)	6 (5)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	36 (13)	28 (3)	323 (84)
(内数) 進学希望者数	4 [(1)]	13 [(2)]	33 [(9)]	38 [(6)]	19 [(7)]	36 [(11)]	10 [(5)]	3 [(3)]	5 [(3)]	39 [(6)]	28 [(6)]	2 [(0)]	3 [(3)]	0 [(0)]	2 [(0)]	4 [(2)]	36 [(13)]	24 [(3)]	299 [(80)]
大 学 学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
(内数) 進学希望者数	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]
(F) そ の 他	7 (3)	4 (1)	15 (5)	5 (2)	9 (5)	4 (1)	3 (3)	13 (8)	3 (0)	8 (2)	6 (0)	9 (4)	2 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	16 (8)	7 (0)	113 (44)

※A=C+E+F ・ D=C÷B×100

専門職大学院

	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学院)	公共政策大学院 (公共政策学部)	合 計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A)修了者数	41	15	30	86
(B)就職希望者数	14	10	29	53
(C)就職者数	14	8	28	50
(内数)道内就職者	0	2	11	13
有職者	0	0	12	12
(D)就職率(%)	100.0	80.0	96.6	94.3
昨年度の就職率(%)	100.0	100.0	90.5	94.7
(E)進学者数	0	0	0	0
(内数)大学院 〔本学進学者数〕	0	0	0	0
大 学	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕
〔本学進学者数〕	0	0	0	0
	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕
(F)その他の	27	7	2	36

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※法科大学院(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

	法学 研究科	水産 科学院	環境 科学院	理学院	農学院	生命科学 科学院	教育学院	国際広報 メディア・観光学院	保健 科学院	工学院	総合 化学院	経済学院	医学院 ・医学 研究科	歯学院	獣医学院	医理工 学院	国際 感染症 学院	国際 食資源 学院	文学院 ・文学 研究科	情報科学院 ・情報科学 研究科	合 計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A)修了者数	7	29	48	30	35	49	15	11	16	43	33	3	83	23	16	2	13	13	34	23	526
(うち単位修得退学者数)	3	1	8	2	3	7	0	3	2	1	5	2	1	0	1	0	1	1	6	5	66
(B)就職希望者数	5	28	39	24	35	43	15	7	15	42	32	2	76	21	13	2	11	13	28	23	474
(C)就職者数	5	24	30	22	29	41	15	5	12	38	29	2	73	19	13	2	8	8	27	21	423
(内数)道内就職者	2	7	12	5	7	14	11	4	6	13	8	1	65	15	5	1	1	3	19	6	214
有職者	0	4	1	1	3	5	0	3	8	9	4	0	64	2	0	0	0	0	6	5	115
(D)就職率(%)	100.0	85.7	76.9	91.7	82.9	95.3	90.0	71.4	80.0	90.5	90.6	100.0	96.1	90.5	100.0	100.0	72.7	61.5	96.4	91.3	89.2
昨年の就職率(%)	75.0	90.9	85.7	92.0	87.0	96.9	90.9	77.8	90.9	94.9	87.8	100.0	96.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	95.0	92.0
(E)進学者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
(内数)大学院	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(内数)〔本学進学者数〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕
大 学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
〔本学進学者数〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕	〔0〕
(F)その他の	2	0	5	2	6	8	2	6	4	5	4	1	9	4	3	0	5	5	7	2	101

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※単位修得退学者を便宜上「修了者」として含める。

2. 地域別就職者数

令和8年5月1日現在

学 部

企業 の所在地	学部		文学部 就職者数	教育学部 就職者数	法学部 就職者数	経済学部 就職者数	理学部 就職者数	医学部		歯学部 就職者数	薬学部 薬科学科(4年制)		工学部 就職者数	農学部 就職者数	獣医学部 就職者数	水産学部 就職者数	合計 地域別就職者数	
	医学科	保健学科						就職者数	就職者数		就職者数	就職者数						
北海道	札幌市	26 (16)	7 (3)	31 (9)	26 (5)	6 (1)	61 (50)					5 (1)	9 (0)	10 (3)	2 (2)	7 (1)	190 (91)	
	札幌市以外	8 (3)	1 (0)	1 (0)	6 (2)	3 (0)	8 (6)						2 (0)	2 (1)	4 (1)	5 (1)	40 (14)	
	青森県												1 (0)				1 (0)	
	岩手県																0 (0)	
東北	宮城県		1 (1)	3 (1)	2 (1)		1 (1)						1 (1)			1 (0)	8 (5)	
	秋田県																1 (0)	
	山形県					1 (1)											1 (1)	
	福島県													1 (0)			1 (0)	
関東	茨城県			1 (0)	1 (0)							1 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)		6 (3)	
	栃木県		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)									4 (0)	
	群馬県	1 (0)		1 (0)	1 (0)												3 (0)	
	埼玉県			3 (1)		1 (1)									3 (1)		7 (3)	
	千葉県				1 (0)			1 (1)				1 (0)	1 (1)		2 (0)	1 (0)	7 (2)	
	東京都	61 (26)	23 (12)	91 (30)	86 (17)	15 (1)	19 (17)					11 (4)	38 (9)	21 (14)	10 (5)	20 (8)	395 (143)	
北陸	神奈川県	3 (2)		2 (0)	2 (0)	1 (1)	2 (2)				1 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	16 (9)	
	新潟県																3 (0)	
	富山県	3 (2)		1 (1)	2 (2)											2 (0)	8 (5)	
	石川県																3 (1)	
	福井県	1 (1)	1 (0)		2 (1)	1 (0)											2 (1)	
	山梨県					1 (0)											1 (0)	
中部	長野県																0 (0)	
	岐阜県							1 (1)						2 (1)			3 (2)	
	静岡県	1 (1)			2 (0)			1 (0)					3 (1)				7 (2)	
	愛知県	2 (0)	1 (0)	4 (2)	2 (0)	1 (0)							7 (1)		1 (1)	1 (0)	19 (4)	
近畿	三重県																0 (0)	
	滋賀県												1 (0)				1 (0)	
	京都府	1 (1)		1 (0)	1 (0)		1 (0)							1 (1)			5 (2)	
	大阪府	4 (2)	2 (1)	9 (1)	2 (0)		3 (3)					2 (1)	1 (1)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	29 (10)	
中国	兵庫県			1 (0)													1 (0)	
	奈良県																0 (0)	
	和歌山県																1 (1)	
	鳥取県																0 (0)	
	島根県		1 (1)														0 (0)	
	岡山県	1 (0)													1 (1)		2 (2)	
四国	広島県			2 (0)	1 (1)		1 (1)							1 (0)	1 (1)		2 (1)	
	山口県																0 (0)	
	徳島県			1 (0)									1 (0)				2 (0)	
	香川県	1 (0)															1 (0)	
九州	愛媛県			1 (1)													1 (1)	
	高知県			1 (0)		1 (0)											3 (0)	
	福岡県	2 (1)	1 (0)	1 (1)													3 (2)	
	佐賀県																0 (0)	
	長崎県														2 (1)	1 (0)	3 (1)	
	熊本県																0 (0)	
沖縄県 海外	大分県																0 (0)	
	宮崎県																0 (0)	
	鹿児島県														1 (0)		1 (0)	
	就職先詳細不明	2 (2)													1 (1)	1 (1)	2 (2)	
合計	117	(57)	39	(18)	156	(47)	140	(30)	36	(5)	0	(0)	68	(15)	43	(12)	803	(317)

※()は女子で内数

修士課程

研究科・学院		法学研究科	水産科学学院	環境科学学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広域研究・観光学院	保健科学学院	工学院	総合化学学院	経済学学院	医学院	医学院 (公衆衛生コース)	医理工学院	国際食資源学院	文学院	情報科学学院	計
企業名の所在地	和歌山県	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
北海道	札幌市以外		7 (2)	10 (3)	15 (2)	11 (4)	3 (2)	14 (8)	2 (0)	14 (9)	17 (6)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	(0)	1 (0)	1 (1)	8 (7)	13 (0)	125 (49)
	青森県		3 (1)	5 (1)	3 (0)	6 (3)	1 (0)		3 (3)		10 (1)	1 (1)				1 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	37 (12)
	岩手県		1 (0)	1 (0)																2 (0)
	岩手県		2 (1)																	2 (1)
東北	宮城県		1 (1)	2 (0)						1 (1)	2 (0)	2 (2)								8 (4)
	秋田県		1 (0)																	1 (0)
	山形県										1 (0)									1 (0)
	福島県		1 (1)									3 (0)								4 (1)
関東	茨城県		1 (0)	1 (0)		3 (2)	3 (2)		1 (1)		5 (0)	3 (2)				1 (1)	2 (1)		2 (0)	22 (9)
	栃木県			1 (0)		2 (0)					1 (0)	1 (0)						1 (1)	1 (0)	6 (0)
	群馬県					2 (1)														3 (2)
	埼玉県				2 (0)	1 (0)	1 (1)		1 (0)		3 (0)	2 (1)	1 (0)							11 (2)
関東	千葉県		1 (1)	6 (2)		5 (2)					3 (0)	5 (0)								21 (6)
	東京都	2 (1)	43 (11)	39 (14)	41 (5)	63 (23)	35 (19)	5 (4)	12 (9)	17 (11)	150 (18)	47 (8)	6 (2)	5 (3)		3 (0)	5 (1)	21 (11)	90 (5)	584 (145)
	神奈川県		6 (2)	8 (1)	1 (0)	3 (0)	3 (1)		3 (2)	1 (1)	30 (4)	8 (3)	1 (1)	2 (2)		1 (0)			15 (2)	82 (19)
	新潟県					1 (1)					(0)	1 (1)								2 (2)
北陸	富山県			1 (0)			1 (1)	1 (0)			(0)							1 (0)	1 (0)	5 (1)
	石川県						1 (0)				(0)									1 (0)
	福井県						1 (0)				(0)									1 (0)
	山梨県				1 (0)	1 (0)					(0)	1 (0)							2 (0)	5 (0)
中部	長野県		1 (0)	2 (1)					1 (0)		3 (0)								1 (0)	8 (1)
	岐阜県											1 (1)								1 (1)
	静岡県			4 (0)		3 (0)					3 (1)	1 (0)							2 (0)	13 (1)
	愛知県	1 (1)	3 (0)	5 (0)	1 (0)	1 (0)			1 (0)		17 (3)								10 (2)	39 (6)
近畿	三重県		1 (1)	1 (0)	1 (0)						2 (0)	2 (0)								7 (1)
	滋賀県					1 (0)	1 (1)				1 (0)	1 (0)							1 (0)	5 (1)
	京都府			1 (0)			1 (0)				4 (0)							2 (1)	3 (2)	12 (3)
	大阪府		6 (1)	5 (2)	1 (0)	7 (1)	5 (2)		1 (1)	1 (0)	17 (5)	5 (3)						1 (1)	2 (1)	51 (17)
近畿	兵庫県		5 (1)	3 (1)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (0)		13 (2)	5 (3)							3 (0)	38 (9)
	奈良県																			0 (0)
	和歌山県					1 (1)	1 (1)													2 (2)
	鳥取県																			0 (0)
中国	島根県							1 (0)												0 (0)
	岡山県					1 (1)														1 (0)
	広島県			1 (0)						1 (0)	3 (1)	1 (1)	1 (0)					1 (0)	2 (1)	10 (3)
	山口県			1 (1)			1 (1)				1 (0)	1 (0)								4 (2)
四国	徳島県		1 (0)																	2 (0)
	香川県																			1 (0)
	愛媛県									1 (0)	1 (0)									2 (0)
	高知県																			0 (0)
九州	福岡県			2 (1)	1 (1)						5 (2)								1 (0)	9 (4)
	佐賀県						1 (0)											1 (0)		2 (0)
	長崎県		1 (0)								4 (0)	1 (0)								6 (0)
	熊本県						2 (0)		1 (1)			1 (0)								4 (1)
九州	大分県		1 (0)						1 (1)											2 (1)
	宮崎県	1 (1)										1 (0)								2 (1)
	鹿児島県																			0 (0)
	鹿児島県																			0 (0)
沖縄県																				0 (0)
海外		1 (0)	1 (0)	4 (1)		2 (1)	2 (0)	2 (1)	5 (5)	1 (1)	12 (1)	1 (0)	6 (5)					4 (4)	3 (0)	44 (19)
就職先詳細不明						1 (0)												2 (2)	1 (0)	4 (2)
合	計	5 (3)	87 (23)	103 (28)	69 (8)	118 (40)	66 (32)	24 (14)	34 (24)	38 (23)	308 (44)	103 (31)	16 (8)	9 (6)	0 (0)	7 (1)	10 (4)	42 (27)	154 (13)	1,193 (329)

※()は女子で内数

専門職大学院

企業 の所在地	研究科等	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学院)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合	計
		就職者数	就職者数	就職者数		
北海道	札幌市		2	6	8	(2)
	札幌市以外		(1)	(1)	5	(1)
	青森県			(1)	5	(1)
東北	岩手県				0	(0)
	宮城県				0	(0)
	秋田県			1	1	(0)
	山形県			(0)	0	(0)
	福島県				0	(0)
関東	茨城県				0	(0)
	栃木県				0	(0)
	群馬県				0	(0)
	埼玉県	14			14	(1)
	千葉県				0	(0)
	東京都		3	10	13	(6)
北陸	神奈川県		(1)	(5)	0	(0)
	新潟県			(0)	0	(0)
	富山県			1	1	(0)
	石川県			(0)	0	(0)
	福井県		1		1	(0)
中部	山梨県		(0)		0	(0)
	長野県				0	(0)
	岐阜県				0	(0)
	静岡県				0	(0)
	愛知県				0	(0)
	三重県		1	1	1	(1)
近畿	滋賀県		(1)	(1)	1	(1)
	京都府				0	(0)
	大阪府				0	(0)
	兵庫県		1	2	3	(2)
	奈良県		(0)	(2)	0	(0)
中国	和歌山県				0	(0)
	鳥取県				0	(0)
	鳥根県				0	(0)
	岡山県				0	(0)
	広島県			1	1	(0)
四国	山口県			(0)	0	(0)
	徳島県				0	(0)
	香川県				0	(0)
	愛媛県				0	(0)
九州	高知県				0	(0)
	福岡県				0	(0)
	佐賀県				0	(0)
	長崎県				0	(0)
	熊本県				0	(0)
	大分県				0	(0)
沖縄県	宮崎県				0	(0)
	鹿児島県				0	(0)
	沖縄県				1	(0)
海外	就職先詳細不明			1	1	(0)
合計		14	8	28	50	(14)

※()は女子で内数

博士課程

研究科・学院		法学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際健康科学大学院	保健科学院	工学院	総合化学学院	経済科学院	医学院・医学研究科	歯学院	獣医学院	医理工学院	国際感染症学院	国際食資源学院	文学研究科	情報科学・情報科学研究科	合計
企業の所在地	研究科・学院	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
		2 (1)	1 (0)	12 (5)	3 (0)	13 (4)	14 (2)	8 (6)	2 (0)	6 (2)	12 (2)	7 (2)	1 (1)	44 (7)	12 (5)	5 (2)	1 (0)	2 (1)	2 (1)	19 (7)	6 (1)	171 (48)
北海道	札幌市以外				4 (0)	1 (0)		3 (2)	2 (1)		1 (0)	1 (1)		21 (3)	3 (2)			1 (0)				43 (11)
	青森県	1 (1)																				0 (0)
東北	岩手県				1 (0)						1 (0)											2 (1)
	宮城県																					3 (0)
	秋田県							1 (1)														1 (1)
	山形県																					0 (0)
	福島県						1 (1)				1 (0)	3 (1)									1 (0)	13 (4)
関東	茨城県				2 (1)	3 (1)																1 (0)
	栃木県				1 (0)																	0 (0)
	群馬県																					0 (0)
	埼玉県				1 (0)	1 (0)																2 (0)
	千葉県			2 (1)																		2 (1)
関東	東京都	1 (0)	4 (3)	2 (1)	5 (1)	1 (0)	4 (0)	2 (1)		2 (0)	9 (0)	3 (0)	1 (0)	2 (1)		1 (1)	1 (1)			5 (1)	4 (0)	46 (9)
	神奈川県		2 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (1)	2 (1)				1 (0)	6 (0)		1 (0)						5 (1)		22 (6)
	新潟県																					0 (0)
	富山県																					0 (0)
	石川県																					0 (0)
北陸	福井県			1 (0)			1 (0)														1 (0)	2 (0)
	山梨県																					2 (0)
中部	長野県		2 (1)																			2 (1)
	岐阜県																					0 (0)
	静岡県			1 (0)			1 (0)		1 (1)		2				1 (0)		1 (0)					3 (1)
	愛知県					1 (0)									1 (0)							4 (0)
	三重県																					1 (0)
近畿	滋賀県			1 (0)	2 (1)		1 (0)														1 (0)	5 (1)
	京都府				1 (0)	1 (0)	1 (0)			1 (1)	1 (0)							1 (1)				6 (2)
	大阪府		1 (0)			1 (0)	2 (1)			1 (1)	2 (0)	2 (0)		1 (0)								11 (3)
	兵庫県		1 (0)				1 (0)					1 (0)				1 (0)						4 (0)
	奈良県																					0 (0)
中国	和歌山県																					0 (0)
	鳥取県																					0 (0)
	島根県																					0 (0)
	岡山県						1 (0)														1 (0)	1 (0)
	広島県			1 (0)				1 (1)												1 (0)	1 (1)	4 (3)
四国	山口県																					1 (0)
	徳島県																					0 (0)
	香川県																					0 (0)
	愛媛県																					0 (0)
	高知県																					0 (0)
九州	福岡県		1 (1)			1 (0)	1 (0)							1 (1)								3 (1)
	佐賀県																					0 (0)
	長崎県																					0 (0)
	熊本県		1 (0)									1 (1)										2 (1)
	大分県		1 (0)																			1 (0)
沖縄県	宮崎県																					0 (0)
	鹿児島県																					0 (0)
海外	沖縄県	1 (0)	4 (0)	8 (4)	1 (1)	4 (2)	7 (3)			2 (2)	8 (0)	5 (1)		3 (1)	1 (1)	4 (2)	1 (0)	6 (2)	4 (2)	2 (2)	2 (0)	63 (23)
	就職先詳細不明														1 (1)	1 (1)	1 (1)					2 (2)
合計		5 (2)	24 (8)	30(12)	22 (4)	29 (8)	41 (9)	15(11)	5 (2)	12 (6)	38 (2)	29 (6)	2 (1)	73(13)	19 (9)	13 (7)	2 (0)	8 (3)	8 (4)	27(10)	21 (3)	423 (120)

※()は女子で内数

(学務部キャリア支援課)

編集メモ

- 8月1日（土）に「こども本の森 札幌・北大」が開館しました。連日多くの子どもたちが訪れ、本との出会いや読書を楽しむ姿が見られています。

<https://honnomori-sap-hok.jp/>

- 本学は8月14日（金）に創基150周年を迎えました。9月26日（土）・27日（日）には、150年の歩みを顕彰するとともに、未来に向けた本学の姿勢や価値、社会との連携のあり方を広く発信する機会として、記念式典並びに記念イベントの開催を予定しています。参加登録は8月31日（月）までです。

<https://150th.hokudai.ac.jp/project/ja-ceremony-events>





キャンパス懐古 17 新築の環境科学研究科管理棟（1980年8月）

1977年設置の独立大学院、環境科学研究科は、キャンパス各所の既存建物を使用してきましたが、1980年4月ようやく新築の管理棟、研究棟、実験棟が完成しました。事務局屋上から北側を撮影した写真には、手前に環境科学研究科管理棟、その向こう側に旧附属土木専門部本館（1929年建築）が並び建ち、新旧建物併存の様子が見て取れます。

旧附属土木専門部本館は、戦後、教育学部校舎や第三サークル会館として使用され北大生に親しまれまし

たが、1981年8月に取り壊されました。そして、かつてこの周辺には、札幌農学校の農校園施設が建ち並んでいました。農校園施設は、1895年に北18条へ移設され、現存する模範家畜房などの建物は重要文化財となっています。

大学の歴史が幾重にも積み重なった場所です。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）